

## 和仏法律学校講義録

山口, 弘一 / 富谷, 銈太郎 / 下村, 宏 / 栗津, 清亮

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-10-25

# 和佛法律學校

## 講義錄

第貳部

第拾八號

商法保險 (自二七) 法學士粟津清亮

商法手形 (完) (自二八) 法學博士富谷銈太郎  
表紙及目次四頁

財政學 (自三六) 法學士下村宏

國際私法 (自四一) 山口弘一



090  
1900  
2-1-18

ラサルヘキ貨物ニシテ之ヲ搭載スヘキ船名ノ未タ詳ナラサル場合ニ主トシテ  
用ヒラルル所ノモノナリ船舶ノ名稱スラ分明ナラス何ソ國籍種類ヲ詳知スル  
ヲ得ヘケンヤ是レ亦卓上論ノ結果ナリ  
保險證券ハ此ノ如ク詳細ニ規定セラルト雖モ之カ別ニ契約締結ノ要件タラサ  
ルコトハ曩ニ述ヘタル如シ是レ我邦ニ限ラス一般ノ法律上然ルカ如シト雖モ  
英國ノ「ヴィクトリア」印紙税法中ニハ海上保險契約ハ保險證券ヲ以テセサレハ締  
結スルヲ許サストノ規定アリ然レトモ是レ寧ロ保險法理上ノ考察ヨリセルニ  
非スシテ海上保險證券ニ貼附スヘキ印紙稅ヲ規定シ之ヨリ少カラサル租稅ヲ  
得ンカ爲メノ規定ナルカ如シ故ニ今日ハ有名無實ニシテ契約ノ成立ノ爲メニ  
ハ別ニ之ヲ要セサルナリ  
序ニ保險證券ノ印紙稅ヲ言ハンニ英國印紙稅法ノ如ク海上保險證券ニ保險金  
額ニ準シテ印紙稅ヲ徵收スルカ如キ苛酷ナル法律ハ他ノ類例ヲ見サルカ如シ  
或ハ保險證券ヲ目シテ金高記載アル證券トスル者アリト雖モ該金高タル所開  
架空ノ金額ニシテ其記載セラレタル金額カ必ス若クハ全額創設移轉セラルヘ

キモノニ非サルカ故ニ我印紙税ノ規定ハ特ニ保險證券一枚ニ對シ貳錢トセリ是レ頗ル適當ノ規定ナリトス

### 第六節 保險契約ノ效力

保險契約ノ效力トハ契約ノ成立ニ因リテ當事者間ニ權利及ヒ義務ヲ發生セシムルコトニシテ茲ニ彼等カ如何ナル權利ト義務ヲ有スルヤヲ述ヘントス

#### 第一 保險者ノ權利義務

保險者ノ義務ハ頗ル單純ニシテ約定シタル事故ノ發生ニ當リテ保險金ヲ支拂フヘキコトニ在リ而シテ其權利ハ相手方ヨリ保險料ヲ取得スルノ外尙ホ多クノ權利ヲ有セリ而シテ其權利ハ即チ保險契約者ノ義務ナルカ故ニ之ヲ次項ノ説明ニ讓ル

#### 第二 保險契約者時ニ被保險者又ハ保險金受取人ノ權利義務

保險契約者ノ權利ハ事故ノ發生ニ當リテ保險者ヨリ損害ノ填補ヲ受タルニ在リ而シテ此保險契約者ノ權利ハ時ニ被保險者又ハ保險金受取人ニ移ルコトア

リ即チ保險契約者カ保險契約ニ對スル權利ハ事故カ未タ發生セサル間ニ於テノミ存在スルモノニシテ例ヘハ契約ヲ解除スルノ權拂戻金ヲ請求スルノ權等ニシテ事故發生後ノ利益ハ總テ保險金受取人ニ歸スルモノナリ而シテ保險契約者ノ權利カ被保險者ニ移ル場合ハ前者カ當然積立金ヲ請求スル權利ヲ有シナカラ之カ請求ヲ爲スニ先ナテ死亡シタル場合ニハ其請求權カ契約者ノ相續人ニ移ラスシテ被保險者ニ移ルコトト爲レリ這ハ我商法第四百二十八條ノ解釋上ヨリ來ルモノナレトモ立法者カ果シテ深ク之ヲ研究シテ定メタルヤ否ヤハ疑ハシキナリ

六ニ保險契約者ノ義務ヲ掲ケントス

#### (甲) 顯示ノ義務

顯示ノ義務トハ保險契約ノ申込ヲ爲ス者カ危險ノ性質、包容、被保險利益ノ證明等ニ於テ誠實且ツ完全ナル陳述ヲ爲スノ義務ニシテ保險契約者ノ義務ト言ハシヨリハ契約候補者ノ義務ト稱スル方一見適當ナルカ如シト雖モ而モ保險契約者ハ之ニ依リテ契約成立ノ後常ニ其關係ヲ受ケツツアリ之カ虛偽又ハ錯誤

ナルコトノ發見セラレルトキハ契約ヲ無効ニ歸セシメサルヘカラサルカ故ニ  
 保險契約者ノ第一著ニ最モ注意スヘキ所タリ  
 商法第三百九十八條ニ曰ク「保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過  
 失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタル  
 トキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカ  
 リシトキハ此限ニ在ラス」是レ保險契約ハ當事者ノ誠實ナル意思ヲ必要トス  
 ルハ勿論縱令過失ニセヨ重要ナル事實ニ付テノ陳示ヲ缺キタル場合ハ之ヲ無  
 效トスルノ趣意ニシテ重要ナル事項トハ曩ニ説明シタルカ如シ但シ保險者カ  
 之ヲ知レル場合ハ勿論普通ノ智識能力手段ヲ以テ之ヲ知ルヲ得ヘキニ之ヲ知  
 ラスシテ契約ヲ締結スルトキハ其失事口保險者ニ在ルカ故ニ彼カ之ヲ知りテ  
 契約シタルモノト推定シ該契約ヲ無効トセサルナリ  
 陳示ノ義務ハ保險契約者ニ要求セラレルノミナラス生命保險ニ在リテハ被保險  
 者ニモ此義務ヲ規定セラレタリ(第四二九條)是レ生命保險ニ於テハ被保險者ノ  
 身體ノ狀況ハ被保險者自身ノ最モ善ク知ル所ニシテ彼ニ之ヲ陳述ヒヤムル必

要ト場合多キカ故ナリトス

(乙) 保險料支拂ノ義務

保險者カ損害填補ノ責ニ任スルハ之カ報酬トシテ保險料ヲ受タルカ故ナリ故  
 ニ之ヲ支拂フコトハ保險契約者ノ義務ノ最モ明カナルモノナリ  
 保險料ノ支拂ハ保險契約者ノ負擔スル所ナレトモ保險契約者ト被保險者カ別  
 人ナル場合ニ前者カ破産ノ宣告ヲ受ケ將來支拂ノ義務ヲ盡スコトヲ得サルノ  
 狀態ニ陥レルトキハ被保險者カ之ニ代リテ保險料ヲ支拂ハサルヘカラス勿論  
 被保險者カ最早保險契約ノ利益ヲ享クルヲ欲セサルトキハ必スシモ保險料ヲ  
 支拂フニ及ハサルナリ(第四〇六條)

保險料支拂ノ義務ハ一年間ノ時効ニ因リテ消滅ス(第四一七條)

(丙) 利益ヲ保護スル義務

保險契約ノ目的ハ避クヘカラサル損害ヲ填補スルニ在リ故ニ被保險者ハ能フ  
 丈ノ注意ヲ以テ損害ヲ避クルコトヲ勉メ力及ハサル場合ニ始メテ保險者ノ填  
 補ヲ受クヘキモノタルヲ記憶セサルヘカラス自己ノ家屋財産ヲ火災保險ニ付

シタリトテ火ノ用心ヲ粗末ニシテ或ハ近傍ヨリ出火シテ自家ニ延燒シ來ルヲ見ナカラ荷物ヲ運ヒ出テスシテ冷然タル如キハ不可ナリ商法第四百十四條ニモ被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要スト規定セリ而シテ之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用ハ保險者之ヲ負擔スト規定セル位ナレハ被保險者カ其義務ヲ果ササリセハ保險者ハ填補ノ責任ナシト解釋シテ可ナルヘシ且ツ又第三百九十六條ニ……保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セストアルモ畢竟利益ヲ損本ニシタル場合ノ制裁ニ外ナラサルナリ

前述二箇條ノ規定ハ損害保險ニ限リテ適用セラルヘキモノニシテ生命保險ニ付テハ第四百三十一條ヲ此義務ニ對スル制裁ト看做シテ可ナリ

(丁) 危險ノ變更ヲ通知スル義務

危險ハ保險契約ノ要素ニシテ其程度ニ由リテ保險料確定シ當事者ノ合意亦成立ス故ニ保險契約者ハ契約ノ當時ニ於テ毫末ノ隱蔽遺漏アルコトナク巨細ニ危險ノ狀況ヲ陳示スル責任アルノミナラス契約成立後常ニ危險ノ狀況ニ注意

シテ之カ變更又ハ増加ヲ認メタルトキハ直チニ之ヲ保險者ニ通知セサルヘカラス而シテ此義務ヲ怠レハ契約ノ無効ニ歸スルコト無論ナリ之ニ就テハ商法第四百十一條第二項及ヒ第三項ニ詳細ノ規定アリ

危險ノ變更増加ニハ之カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ルト然ラザルトノ二箇ノ場合アリ我商法ハ此各場合ニ對スル規定ヲ異ニシ前者ニ對シテハ當然保險契約ノ效力ヲ失ハシメ後者ニ付テハ保險者ニ契約ノ解除ヲ許セリ共ニ保險者ヲ保護スル爲メナリ然レトモ是レ不必要ナル區別ニシテ縱令契約者ノ責ニ歸スヘキ變更増加ナリトモ之ヲ保險者ニ通知セシムル義務ヲ規定シ置カハ保險者ヲ保護スルノ途ニ於テ缺タル所ナキノミナラス却テ保險者ヲシテ契約ヲ失ハナラシムル利益ヲ得セシムルモノナリ故ニ予ハ商法第四百十條ヲ不必要ト感スルナリ

而シテ所謂危險ノ變更増加ハ若シキ變更増加ナラサルヘカラヌ些細ナル變更増加ニモ此義務ヲ負ハシムルハ契約者ニ對シテ酷ニ過クルト言ハサルヘカラス但シ著シキト云フコトハ頗ル漠然タルコトニヤテ結局事實問題ニ入りテ裁

判官ノ認定ニ委セサルヘカラサルコトナリ  
 (戊) 損害ヲ通知シ且ツ之ヲ證明スル義務  
 危險發生シテ損害起リタル場合ニハ保險契約者又ハ被保險者或ハ保險金受取人ハ直チニ其旨ヲ保險者ニ通知シ且ツ之ヲ證明セサルヘカラス直チニ通知セサルヘカラサル必要ハ保險者ヲシテ十分速ニ其損害ノ眞偽ヲ鑑別セシメンカ爲メナリ例ヘハ生命保險ニ於テ被保險者カ死亡シ葬式ヲ濟マセ尙不數日ノ後ニ之ヲ保險者ニ通知スル如キコトアラハ該死亡ニ付テ保險者カ疑團ヲ挾ムトキト雖モ之ヲ解クノ手懸リヲ埋没セシメラレテ又如何トモスル能ハサルノ不理ヲ來スカ如シ故ニ我商法ニモ第四百十二條第四百三十二條ニ遲滯ヲク損害ノ發生ヲ通知スル義務ヲ彼等ニ強制セリ  
 而シテ損害ヲ證明スル義務ハ之ニ附隨シテ當然存在スルモノニシテ例ヘハ生命保險ニ在リテハ主治醫ノ死亡證明書及ヒ戸籍吏ノ證明ヲ以テ被保險者ノ死亡ヲ證シ火災保險ニ於テハ損害調査ヲ差出サシメ海上保險ニ於テ海損計算書ヲ提出セシムルカ如シ

サナル參加引受ハ口頭其他如何ニ明瞭ナル方法ヲ以テスルモ其效力ヲルナリ(第五〇三條)  
 參加引受人カ參加引受ヲ爲スニ當リテハ何人ノ爲メニ參加スルモノナリヤヲ定ムル權利アリ例ヘハ甲ノ振出シタル爲換手形ニシテ乙丙丁ノ裏書ニ因リテ遂ニ戊ニ移轉シタル手形アリトセンカ甲若クハ乙若クハ丙又ハ丁ヲ被參加人トスル如ク自己ノ欲スル者ノ爲メニ引受ヲ爲スコトヲ得參加人ニ於テ其何人ノ爲メニスル參加ナルヤヲ記載セザルトキハ最も多ク擔保義務者ヲ免レシムル爲メ即チ振出人ノ爲メニ參加引受ヲ爲シタルモノト看做サル(第五〇三條第二項此規定ハ性質上隨意參加ノ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ委託參加ニ適用ナキコト明カナリ何トナレハ豫備支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ委託ニ因ル參加ナルカ故ニ其委託者ノ爲メニ引受ヲ爲スモノナルヲ以テ委託者ニ非タル者ノ爲メニ爲ス引受ハ隨意ノ引受ト爲ルコト勿論ナレハナリ但シ豫備支拂人タルコトヲ拒絕シテ隨意ノ參加ヲ爲スコト妨ケナキカ故ニ若シ豫備支拂人トシテ記載セラレタル者更ニ隨意參加ヲ爲シタルトキハ右ノ規定ヲ之ニ適

用スヘキコト論ナシ  
 參加引受アルトキハ手形所持人ハ其作成シタル引受拒絶證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ拒絶證書作成ノ費用ヲ支拂ト引換ヘ其證書ヲ參加引受人ニ交付セタルヘカラス(第五〇四條)參加引受ニ因リテ生スル效力左ノ如シ  
 第一 被參加人及ヒ其後者ヲシテ所持人ニ對シ引受ナキニ因リ供スヘキ擔保ヲ供スル義務ヲ免レシム 其理由ハ參加引受アリタルトキハ被參加人及ヒ其後者ノ爲メニハ所謂引受アリシモノト謂ハサルヘカラサレハナリ(第五〇六條)  
 第二 參加引受人ハ爲替手形ノ所持人ニ對シ條件附手形金額支拂ノ義務ヲ負擔ス 爲替手形ノ支拂人ハ手形ノ支拂ヲ引受タルニ因リテ爲替手形ノ主タル義務者ト爲ルコトハ既ニ説明シタル如シ參加引受人ナル者ハ手形支拂人ト同シタ主タル義務者タル地位ニ在ル者ナレトモ支拂人ノ引受ノ如ク満期日ニ支拂ヲ爲スコトヲ承諾シタルモノニ非スシテ條件附ヲ以テ之ヲ承諾シタルモノナリ換言セハ支拂人カ満期日ニ支拂ヲ爲サザリシトキナル條件ヲ以テノミ支拂ヲ爲ス義務ヲ負擔ス故ニ參加引受人ノ義務即チ手形支拂ノ義務ノ發生ニハ

左ノ三箇ノ條件ヲ要ス

- (一) 爲替手形ノ満期日又ハ其後ノ二日內ニ手形金額ノ支拂ナカリシコト
  - (二) 其支拂ナカリシコトヲ拒絶證書ニ依リ證明スルコト
  - (三) 所持人カ満期日又ハ其後二日內ニ參加引受人ニ對シ支拂ヲ求メタルコト
- 此條件カ具備スル場合ニ於テ參加引受人ハ始メテ支拂ヲ爲スヘキモノト謂ハサルヘカラス(第五〇五條第五〇八條)
- 右ニ論シタル如ク參加引受ハ被參加人ノ爲メニ擔保ヲ供スル義務ヲ免レシムルモノニシテ總テノ者ノ義務ヲ免レシムルモノニ非ス故ニ其被參加人ノ前者ハ總テ引受ナキ手形關係ニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ被參加人ノ爲メニ其前者ニ對シテ擔保ヲ求ムル機會ヲ得セシメサルヘカラス而シテ之カ爲メニハ被參加人ハ參加アリシコトヲ知ルコトヲ要スルヤ勿論ナリ被參加人ヲシテ其實ヲ知ラシムル爲メ參加引受人ハ手形所持人ヨリ交付ヲ受ケタル拒絶證書ヲ被參加人ニ送付スルコトヲ要ス而モ此送付ハ被參加人及ヒ其前者ヲシテ有效ノ擔保請求ヲ爲スコトヲ得セシムル如ク遲滞ナク之ヲ爲ササルヘカラ



ス(第五〇四條第二項)參加引受人ヨリ拒絕證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ被參加人ハ之ニ依リ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニハ擔保ヲ求ムルニ必要ナル手續ヲ爲スヘキコト勿論ナリ(第五〇七條)

### 第二款 參加支拂

既ニ説明シタル如ク爲替手形ノ所持人カ満期日ニ支拂ヲ求メ支拂ヲ受ケルコトヲ得ナルトキハ償還請求權ニ依リ其前者ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得レトモ手形ニ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂ナキニ因リ直チニ其前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ參加引受人又ハ豫備支拂人ハ素ト手形ノ支拂ナキ場合ニ償還義務者ノ爲メニ義務ヲ免レシムヘキ地位ニ在ル者ナルカ故ニ所持人ハ償還請求ヲ爲スニ當リテハ先ツ此者ニ對シテ支拂ヲ求メサルヘカラス換言セハ満期日ニ支拂人ニ對シテ支拂ヲ求メテ満足セザルトキハ支拂拒絕證書ヲ作り豫備支拂人又ハ參加引受人ニ支拂ヲ爲スヤ否ヤヲ確メサルヘカラス此請求ヲ爲シタルニ拘ラス參加引受人又ハ豫備支拂人カ

支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ始メテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス所持人カ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ對シテ手形金額ノ支拂ヲ求メタルモ此等ノ者カ支拂ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ前ニ作リタル支拂拒絕證書ニ其旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス若シ此手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ手形所持人ハ豫備支拂人ヲ定メタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ喪失ス(第五〇八條第三項)

參加支拂ハ參加引受人又ハ豫備支拂人ニ非サル者ト雖モ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得是レ猶ホ手形ニ隨意ノ參加引受ヲ許ス如ク手形ノ信用ヲ維持セシムル一手段ニ外ナラス而シテ所持人ハ參加引受人又ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス(第五〇九條)此點ハ委託ニ因ラサル者ノ引受ヲ拒ムコトヲ得ルコトト區別アル若シキ點ナリ其理由ハ曩ニ述ヘタル如ク引受ハ實際上有益ナルヤ否ヤハ不確實ナルノミナラス若シ引受ヲ拒ムコトヲ得サルモノトセハ安全ナル擔保ヲ得ルコト能ハサル結果ヲ生スル虞ナシトセス之ニ反シテ參加支拂ハ之ニ依リテ所持人ヲシテ安全ナル權利ノ實效ヲ得セシメタル

モノナリ債權者ニシテ手形ノ趣旨ノ如ク辨濟ヲ受タル以上ハ何人ヨリ之ヲ受タルモ異議ヲ唱フヘキ理由ナシ更ニ他ノ方面ヨリ觀察スレハ參加支拂ハ償還請求ノ場合ニ生スヘキ幾多ノ費用ヲ節略スルコトヲ得セシムルカ故ニ所持人ハ參加支拂ヲ拒ムコトヲ得ストスルコト當然ナリ故ニ若シ所持人カ此支拂ヲ受クルコトヲ拒絕シタルトキハ之ニ因リテ擔保ヲ供スルコトヲ免ルルコトヲ得ヘカリシ者ニ對スル手形上ノ權利ヲ喪失セシムル結果ヲ生ス第五〇九條後段)

參加ノ引受ヲ爲サントスル者數人アルコトアルト同シク參加支拂ヲ爲サントスル者モ亦數人アルコトナシトセス又參加引受人及ヒ豫備支拂人ノ記載アル場合ニ豫備支拂人カ參加引受ヲ爲サスシテ參加支拂ヲ爲サントスル場合ノ如キハ所持人ハ何人ノ支拂ヲ承諾セサルヘカラサルヤノ問題ヲ生ス此點ニ付テハ商法ハ最モ債務者ノ利益ト爲ルヘキコトニ推定ヲ下シ參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ストセリ(第五一〇條)

參加支拂ヲ爲サントスルニ當リ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ハ被參加人ヲ明示スルコトヲ得然レトモ特ニ之ヲ明示セザルトキハ手形支拂人ノ爲メニ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス(第五一一條此場合ニ於テハ支拂人ヲ除ク外其他ノ者ハ手形上ニ於テ何等ノ義務ヲ負フコトナキ結果ヲ生ス)

參加支拂ハ單ニ被參加人ヲシテ所持人ニ對スル償還義務ヲ免レシムルニ過キス換言スレハ參加支拂ハ之ニ依リテ手形上ノ債務ヲシテ全然消滅セシムルモノニ非ス何トナレハ參加人ハ參加ニ因リテ單ニ償還義務ヲ免レシムルコトヲ承諾シタルニ過キスシテ自己カ債務者タル地位ニ代リシモノニ非ス參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ此支拂ニ因リテ手形所持人タル權利ヲ取得ス參加支拂人カ支拂ヲ爲シタル場合ニテモ手形債務ハ猶ホ存在ストセハ參加支拂ハ如何ナル效力何等ノ利益アルヤヲ疑フ者アラン然レトモ此利益ハ最モ明瞭ニシテ之ヲ認ムルニ難カラズ即チ下ノ如シ第一償還請求ニ因リテ生スル費用ヲ節減スルコトヲ得第二手形償還義務者ハ之ニ依リテ自己カ將ニ失ハントシタル信用ヲ維持スルコトヲ得何トナレハ參加人ハ少クモ被參加人ニ對シテ信ヲ

置クニ非サレハ支拂ヲ爲ササルヲ常トスレハナリ(第三實際ニ於テハ高利貸營業者ノ如キ酷者カ嚴格ニシテ確實ナル手形權利ヲ得ル目的ヲ以テ參加支拂ヲ爲スコトナシトセス然レトモ此ノ如キハ稀有ノ事實ニシテ參加ヲ爲ス者ノ多數ハ被參加人ノ利益ノ爲メニスルモノナルカ故ニ參加支拂人ハ其求償權利ヲ主張セサルコトアルノミナラス縱令其權利ヲ拋棄セサルモノトスルモ被參加人ノ爲メニ十分ノ猶豫ヲ與ナルコト通例ナリトス

參加支拂人ハ手形所持人タル權利ヲ取得スルコトハ第五百十三條ノ規定スル所ナリ而シテ參加支拂人カ此權利ヲ行ハシカ爲メニハ其參加支拂ヲ爲シタルコトヲ證スル必要アリ此立證ノ爲メ參加支拂ヲ爲スト同時ニ所持人ニ對シテ左ノ書類ノ交付ヲ求ムルコトヲ得第五一二條)

(一) 參加支拂アリタル旨ヲ記載シタル支拂拒絕證書

(二) 其支拂ヒタル原手形

此二箇ノ書類ニ據リテ引受人被參加人及ヒ其前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ實行スルコトヲ得即チ自己カ辨濟シタル金額及ヒ辨濟後ノ利息ヲ請求スルコト

ヲ得ルモノトス第五百十三條ニ參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス(トアルハ所持人ノ權利ヲ承繼スルモノニ非スシテ所持人タル權利ヲ得ル意義ナリト信ス法文上ヨリ言ヘハ所持人カ有セシ權利其モノヲ得ルカ如ク見ユル疑アルカ故ニ或ハ參加支拂人ハ所持人ヨリ其權利ヲ讓受ケタルト同一ノ意義ナリト曰フ者アラシ然レトモ予ハ本條ノ規定ハ參加支拂人ヲシテ所持人タル權利即チ手形上獨立ナル權利ヲ得セシムル意義ナリト信スル者ナリ所持人ノ權利ヲ讓受タル意義ナリトスルト所持人タル權利ヲ得ル意義ナリトスルトニ由リ生スル結果ハ被參加人及ヒ其前者カ參加支拂人ヨリ辨濟ヲ受ケタル所持人ニ對シテ有スル抗辯ヲ以テ參加支拂人ニ對抗スルコトヲ得ルト否トニ歸ス而シテ所持人タル權利ヲ取得セシムル意義ナリト主張スル論據ハ以下ノ如シ(第四百六十二條ハ支拂拒絶證書作成期日後ニ於ケル場合ノ被裏書人ノ權利ヲ規定シテ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス)言ヘリ而シテ新商法ニ於ケル文字ノ使用ハ極メテ嚴格ナルニ由リ參加支拂人ノ權利ヲ規定セタル第五百十三條ニ所謂所持人ノ權利

ヲ取得ストノ語ニシテ單ニ所持人ノ權利ノミヲ取得セシムルノ意味ナリトセ  
 ハ第四百六十二條ノ如キ文字ヲ用フヘカリシナリ然ルニ本條ニ於テ特ニ此ノ  
 如キ文字ヲ用ヒタルモノハ參加支拂人ハ其支拂ヲ爲スニ因リテ以テ獨立ノ權  
 利ヲ取得スル意ナルコトヲ示スモノナリ(二)爲替手形ノ參加支拂ナル制度ヲ設  
 タル理由ハ手形カ圓滿ニ流通スルコトヲ期シタルニ外ナラス即チ少クトモ所  
 持人ノ爲メニハ支拂人カ支拂ヲ爲スト異ナラサル結果ヲ得セシメンカ爲メナ  
 リ此觀念ヲ實行セシメントスルニハ成ルヘク參加人ヲシテ便宜ノ地位ニ在ラ  
 シムルコトヲ要ス參加支拂人ヲシテ獨立ナル權利ヲ得セシムルコト其最モ利  
 益トスル所ナルヘシ此精神ヨリ觀察スルモ右ノ如クニ解スルヲ至當ナリト信  
 ス參加支拂人ノ權利ニシテ果シテ此ノ如キモノナリトセハ參加支拂人ハ被參  
 加人又ハ其前者カ所持人ニ對シ對抗シ得ヘカリシ防禦方法ニ因リテ其權利ヲ  
 妨ケララルルコトナシ

## 第八節 保證

### 第一 手形保證ノ性質及ヒ要件

爲替手形ノ保證トハ爲替手形上主タル署名者カ負擔スヘキ手形債務ヲ擔保ス  
 ル意思表示ナリ此保證モ亦一般ノ保證債務ノ如ク主タル債務ノ成立ヲ必要ト  
 スルコト言フ埃タス然レトモ茲ニ注意スヘキハ一般ノ保證債務ニ於ケルカ如  
 ク主タル債務カ實質上存在スルコトヲ必要トセス換言セハ手形債務ハ其性質  
 上形式ヲ待チテ存在スルモノナルカ故ニ形式的ニ主タル債務ヲ負擔スヘキ者  
 ノ署名アレハ其債務ハ實質上存在セサルモ手形債務ノ保證ハ成立セサルヘカ  
 ラス例ヘハ手形ノ振出人裏書人又ハ引受人カ法律上能力ヲ有セザルトキハ之  
 ヲ理由トシテ手形債務ヲ取消スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ民法ノ規定ニ依レ  
 ハ特別ノ意思表示アルニ非サレハ保證債務成立セス然ルニ手形ニ於テハ形式  
 上主タル債務者ノ署名アル以上ハ縱令其債務ハ取消サルルモ保證債務ハ獨立  
 シテ存在スト謂ハサルヘカラス其他手形カ偽造ナリシトキハ裏書人又ハ引  
 受人ハ手形上ノ債務ヲ負擔セサルモ形式上裏書人引受人ノ債務ヲ保證スルト  
 キハ主タル債務ハ取消サルルニ拘ラス保證債務ハ成立ス要スルニ保證ハ一ノ

手形上ノ獨立ノ債務ト謂フコトヲ得此事タル法文ニハ明言セサルモ第四百九十七條ノ規定ニ依リ此ノ如ク推論スルコトヲ得ヘシ第四三八條第四三七條參照

保證ハ此ノ如キ性質ノ債務ナレトモ其債務カ成立スルニハ必ス手形ノ規定ニ依リ成立シタル手形ノ存在スルコトヲ要ス即チ手形ニ形式上主タル債務者ノ署名ナカルヘカラス若シ此點ニ於テ缺タル所アレハ手形ノ保證ハ成立スルコトヲ得ス次ニ注意スヘキコトハ手形ノ保證ハ一ノ商行爲ナリ第二六三條故ニ手形上保證ヲ爲シタル者ハ商行爲ノ通則ニ依リ連帶ノ責任ヲ負フヘキコト明カナリ第二七三條隨テ此保證ニ付テハ民法ノ連帶債務ノ原則ニ關スル規定ノ準用セララルコト亦明カナリトス(民法第四三二條乃至第四四五條)

第二 手形保證ノ形式

手形ノ保證ハ手形原本、謄本又ハ複製ノ上ニ之ヲ爲スコトヲ要ス其他ノ紙面ニ於テ爲シタル場合ハ如何ニ明瞭ナル意思表示アルモ所謂手形ノ保證タル效力ヲ生セス(第四九七條)此點ハ舊商法ノ手形保證ニ關スル規定ト相異ナル所ナリ

舊商法ニ於テハ別ニ保證ノ記載ヲ爲スコトヲ許セリ此舊法ノ主義ハ佛法系ノ手形法ニ據リタルモノナリ佛法主義ノ理由トスル所ハ若シ手形ニ保證ノ記載アルトキハ其手形ハ流通ヲ爲ス上ニ於テ多少ノ困難ヲ感スヘシ換言セハ手形ニ保證ヲ附セル如キ事情ノ存スル場合ニハ何人モ之ヲ授受スルコトヲ爲ササルニ至リ之カ爲メニ手形ノ流通ヲ妨ケラルルニ至ルヘシ故ニ別紙ニ爲スコトヲ許スラ相當トスト云フニ在リ然レトモ此理由ハ(第一)ニ手形ハ嚴格ナル形式ヲ待テテ成立スルモノナル觀念ニ副ハサルモノト謂ハサルヘカラス(第二)ニ若シ佛法主義ノ如キ事情ヲ斟酌セハ他ニ方法アリ即チ必スシモ表面ニ顯ハサスシテ僅ニ手形債務ノ保證ヲ爲サシムルコトヲ得ヘク別紙ニ爲サシムルノ必要ナキナリ例ヘハ振出人ノ爲メニ保證スル如キ是ナリ振出人ハ手形振出ニ因リ償還義務者ト爲ルコト明カナリ第一ノ受取人ハ振出人ニ對シテ償還請求ノ權利ヲ有ス然レトモ第一ノ受取人ヲ一ノ保證人トスル便宜アリ其理由ハ例ヘハ手形ノ振出人甲カ乙ニ對シテ振出シタル場合ニ乙ハ手形ノ對價ヲ與フルニ非サレハ手形ヲ取得スルコトヲ得ス是レ普通ノ場合ナリ贈與スル如キハ例外ニ

屬ス其手形ノ受取人カ振出人ニ對シテ保證ヲ爲ス場合ニハ實際對價ヲ與フル  
コトヲ要セス單ニ裏書ヲ爲セハ直チニ擔保義務者ト爲ルヲ以テ其結果保證シ  
タルト同一ナリ

手形ノ保證人カ手形ニ保證ノ意思表示ヲ爲ス場合ニハ一般ノ保證債務ニ於ケ  
ルカ如ク何人ノ爲メニ保證ヲ爲スヤラ明記スルコトヲ得例ヘハ振出人ノ爲メ  
ニ或ハ裏書人ノ爲メニスルト云フカ如ク自己ノ意思ニ因リテ被保證人ヲ定ム  
ルコトヲ得然レトモ手形ノ保證ハ手形ノ上ニ署名スルノミニテ成立シ得ルカ  
故ニ被保證人ノ記載ナキ場合ニハ何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルモノト爲スヘ  
キヤノ問題ヲ生ス故ニ法律ハ明文ヲ以テ此問題ヲ決シタリ即チ其保證ハ引受  
人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做シ未ダ引受アラサルトキハ振出人ノ爲メ  
ニ之ヲ爲セタルモノトセリ(第四九八條)此規定ニ依レハ保證ハ最モ多クノ債務  
ヲ免レシムル者ノ爲メニ爲シタルモノト看做スナリ

保證人ハ何人ノ爲メニ保證ヲ爲スヤラ記載シタルト否トニ拘ラス主タル署名  
者ノ負擔シタル債務ヲ履行スル責任ヲ負フ而シテ此債務ハ手形ノ債務カ存在  
スル間即チ手形債務カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅セサル間ハ隨意ニ負  
擔スルコトヲ得然レトモ手形債務カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リ消滅シタル後  
ハ手形ノ保證ニ非スセテ民法上ノ保證ナリ(第四四四條參照)

第三 手形保證ノ效力

保證人ハ保證ヲ爲スニ因リ手形所持人ニ對シ其保證シタル債務ニ付キ主タル  
債務者ト連帶セテ債務ノ履行ヲ爲ス責ニ任ス(第二七三條)但シ茲ニ主タル債務  
ニ付キ注意スヘキコトアリ主タル債務トハ保證人ニ對シテ謂フコトニシテ普  
通ノ意義ト同一ニ非ス手形上ニ於テハ引受人ノ外主タル債務者ナシ故ニ引受  
ナキトキハ主タル債務ナキヲ以テ所謂主タル債務トハ保證人ニ對スル關係の  
ノ語ト解セサルヘカラス

ニ保證ヲ爲ストキハ全部ノ保證ヲ爲シタル結果ヲ生ス是レ一般ノ原則ニ依リ  
 疑ナキ所ナリ  
 次ニ注意ヲ要スル點ハ保證人ハ主タル債務者ノ債務ヲ保證スルモノナルカ故  
 ニ若シ主タル債務者ニ對スル債務カ手形上ノ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタル  
 場合ニ於テハ保證人ノ債務モ亦消滅セザルヲ得ス例ヘハ爲替手形ニ支拂擔當  
 人ノ記載アリシ場合ニハ所持人ハ支拂擔當人ニ對シテ支拂ヲ求メザルヘカラ  
 ス若シ此手續ヲ爲サザルトキハ引受人ニ對シテモ亦其權利ヲ失フ隨テ其引受  
 ヲ保證シタル者アルニ拘ラス其保證ハ主タル債務ノ免ルルニ因リテ自ラ消滅  
 スルモノトス(第四九〇條第二項參照)  
 保證人カ主タル債務者ニ代リテ手形上ノ債務ヲ履行シタルトキハ其辨濟ヲ爲  
 シタル債務ノ限度ニ於テ手形債權者ノ權利ヲ取得ス即チ引受人アルカ或ハ  
 手形裏書人ノ爲メニ保證シタルトキハ引受人又ハ裏書人ニ對シ所持人カ有セ  
 シ權利ヲ實行スルコトヲ得(第四九九條本條ニ依リ保證人カ取得スル權利ハ  
 純然タル代位即チ法律上債權者ニ代リテ行フ權利ナリ詳言スレハ保證人カ得

ル權利ハ手形上獨立ノ權利ニ非スシテ所持人ノ有セシ權利ヲ取得スルニ過キ  
 ス此點ハ參加支拂人ノ權利ト異ナル所ナリ故ニ保證人カ其權利ヲ實行スル場  
 合ニハ手形ノ引受人又ハ償還義務者カ所持人ニ對抗シ得ヘキ防禦方法ハ保證  
 人ニ對シテモ亦之ヲ對抗シ得ルモノトス

### 第九節 拒絶證書

拒絶證書トハ手形上權利ノ行使ニ關シ重要ナル事實ヲ證明スル爲メニ必要ナ  
 ル要式證書ナリ拒絶證書ナルモノハ手形上ノ權利ノ行使ニ關シテ或事實ヲ證  
 明スル爲メニ必ス作成セザルヘカラサル證書ニシテ而モ其證書ハ一定ノ形式  
 ニ依リテ作成セザルヘカラス所謂重要ナル事實トハ既ニ述ヘタル所ニ據リテ  
 明カナレトモ茲ニ之ヲ再言センニ其當ニ作成スヘキ拒絶證書ノ種類ニ依リテ  
 之ヲ知ルヲ便宜トス

第一 引受拒絶證書 引受拒絶證書ハ諸君ノ已ニ知ル如ク爲替手形ノ所持人  
 カ満期日前ニ支拂人ニ對シテ支拂ノ引受ヲ求メテ其承諾ヲ得ザリシ場合ニ據

保ヲ供セシメンカ爲メニ作成スル證書ナリ爲替手形ノ所持人カ滿期日以前ニ引受ヲ求メテ其引受ナキトキハ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモ其支拂ノ引受カ承諾セラレサルノ事實ハ必ス拒絕證書ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ要シ他ノ方法ヲ以テハ之ヲ證明スルコトヲ得ス而シテ擔保ヲ供セシメンカ爲メニ作成スルハ即チ手形上權利ノ行使ニ付キ重要ナル事實ヲ證明スルモノナリ(第四七五條)

第二 引受ノ日附拒絕證書 一覽後定期拂ノ手形所持人ハ其滿期日ヲ定メシムルカ爲メニ法定ノ期間内若クハ手形振出人ノ意思ニ因ル期間内ニ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ引受ヲ求メ且ツ之ニ引受ヲ爲セタル日附ヲ記載セシムル權利ヲ有ス支拂人カ引受ヲ承諾セサル場合ハ固ヨリ第一ノ場合ニ屬スレトモ引受ヲ爲シタルニ拘ラス引受ノ日附ヲ記載スルコトヲ拒ム場合アリ引受人カ引受ノ日附ヲ記載スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テ手形所持人カ引受人ニ對シ辨濟期日ノ到來ヲ速カナラシメントスルニハ直チニ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ要ス何トナレハ若シ拒絕證書ヲ作成セザレハ滿期日ノ起算點ハ法定ノ期間滿了

後ニ非ヤレハ定マラサレハナリ(第四六七條)

第三 擔保拒絕證書 爲替手形ノ所持人カ支拂人ニ對シテ引受ヲ請求シ支拂人カ支拂ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テモ其後引受人カ破産ヲ爲セタルトキハ其引受ハ滿期日ニ於テ有益ナルモノナリヤ否ヤニ付キ頗ル疑アリ故ニ商法ニ於テハ此場合ニ於テハ支拂人カ引受ヲ爲シタルニ拘ラス尙ホ此者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルコトトセリ而シテ此擔保ノ請求ヲ爲シタル場合ニ若シ破産者ノ友人若クハ親戚等カ代リテ擔保ヲ供セハ可ナルモ若シ擔保ヲ拒絕セラレタルトキハ手形ノ引受人カ引受ヲ爲サザリシ場合ノ如ク其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲ス必要アリ此ノ如キ場合ニ支拂引受人カ擔保ヲ拒絕シタル事實ヲ證明スルハ手形權利ノ行使ニ付キ重要ノ事ナリ(第四八〇條)

第四 手形原本返還拒絕證書 手形カ復本ヲ以テ流通スル場合又ハ手形ノ謄本ヲ作成シテ流通ヲ爲シ場合ニ於テ手形原本ノ交付ヲ受タルコトヲ要スル場合アリ此事ハ疑ニ手形ノ復本及ヒ謄本ノコトヲ述ヘタル際ニ説明セシ所ナリ此場合ニ於テ原本ノ保管者ヨリ其返還ヲ拒絕セラレタルトキハ拒絕證書ニ依



リテ此事實ヲ證明セサルヘカラス(第五二一條第五二四條)  
 第五 支拂拒絶證書(第四八七條第四九〇條) 此事ハ復タ警告スルヲ要セス  
 此他參加ノ證明若クハ參加支拂又ハ參加引受ノ拒絶アリタルコトヲ證明スル  
 ニモ亦拒絶證書ヲ以テスルコトヲ要ス但シ此場合ニハ新ニ拒絶證書ヲ作成ス  
 ルコトヲ要セサルコトハ法文上明カナレトモ已ニ作成シタル拒絶證書ニ拒絶  
 ノ旨ヲ記載セサルヘカラサルコト明カナリ(第五〇〇條第五〇四條第五〇八條  
 第五一二條)

拒絶證書ノ作成ハ右ニ列記シタルカ如キ事實ヲ證明スルニ必要ナレトモ此作  
 成スルコトヲ要スル理由ハ結局手形債務者ノ利益ヲ保護スル爲メナリ換言セ  
 ハ手形債務者カ所持人ニ對シテ債務ヲ履行スヘキ條件ノ到來セシコトヲ明カ  
 ニスルカ爲メナリ故ニ手形ノ債務者ハ拒絶證書作成ノ責任ヲ免除スルコトヲ  
 得然レトモ此免除ハ免除シタル者ト免除セラレタル者トノ間ニ於テノミ其效  
 力ヲ生スルニ過キスシテ其他ノ者ニ對シテハ何等ノ效力ナシ故ニ拒絶證書ヲ  
 作成スル場合ニ手形カ數人ノ裏書アリシトキハ之ニ關シ困難ナル問題ヲ生ス

ルコトアリ(第四八九條)

次ニ注意スヘキコトハ拒絶證書モ一ノ要式行爲ナリ然レトモ此要式行爲ナル  
 點カ他ノ點ト少シタ異ナル所ナリ蓋シ爲替手形ノ記載事項ハ其記載セラレタ  
 ル事項カ事實上存在スルト否トヲ問ハス手形トシテ完全ノ效力ヲ生スヘキモ  
 ノナリ之ニ反シテ拒絶證書ニ記載シタル事項ハ事實ナラサルヘカラス例ヘハ  
 支拂人ノ許ニ至リ支拂ヲ求メタルニ支拂ナカリシ旨ヲ記載スルモ其實支拂ヲ  
 求メザリシ反證アラハ其拒絶證書ハ無効ナリ(第五〇四條第五〇六條第五〇七條)  
 拒絶證書ノ要式ナルコト左ノ三點ニ歸ス

- 第一 作成スヘキ人
- 第二 作成スヘキ場所
- 第三 記載事項

是ナリ作成スヘキ人及ヒ場所ニ付テハ手形ニ關スル規定ノ總則ニ依リテ定マ  
 ル(第四四二條第五一四條)此規定ハ必ス遵守スルコトヲ要ス(第四四二條面シテ  
 記載スヘキ事項ハ第五百十五條ニ於テ列記セルカ故ニ就テ看ルヘシ別ニ説明

スヘキモノナシ  
 拒絶證書ニ付キ尙ホ注意スヘキコトハ公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作成シタル場合ニハ豫メ特ニ設ケタル帳簿ニ作成シタル拒絶證書ト同一ナル記載ヲ爲スコトヲ要スルコト是ナリ此帳簿ノ用ハ拒絶證書カ紛失スルカ又ハ滅失シタル場合ニ於テ拒絶證書ニ代ルヘキ原本ヲ作成スルカ爲メナリ執達吏又ハ公證人ハ此帳簿ヲ調査スルコトヲ要スレトモ此帳簿ニ記載セザリシカ爲メニ拒絶證書カ其效力ヲ失フモノニ非ス唯若シ拒絶證書ヲ作成シタル者カ其證書ヲ紛失又ハ滅失シタル場合ニ原本ヲ求ムルコト能ハサルヲ以テ賠償ノ原因タルノミ第五一七條)

以上ヲ以テ爲替手形ニ關スル法則ノ講義ヲ了ルト同時ニ本講義ノ終結トセン約束手形及ヒ小切手ニ關スル法則ハ條文ヲ熟讀シ爲替手形ニ關スル説明ヲ參照セラレンコトヲ望ム

商法手形終

法學博士 富谷 銈太郎 講述

商法手形

和佛法律學校發行

商法手形

本書著者 高橋 大淵 邦雄

味齋堂書局發行

商法手形目次

緒言	一
第一章 總論	三七
第一節 手形ノ區別	三七
第二節 手形債務ノ特質	四二
第三節 手形債務ニ關スル不當ノ利得	五二
第二章 爲替手形	五五
第一節 振出	五五
第一款 爲替手形ニ必要ナル記載事項即チ爲替手形ノ形式的要件	五五
第二款 爲替手形ノ成立ニ必要ナラサル事項	七四
第二節 裏書	九一
第三節 引受	一一一

商法手形目次

商法手形目次

第四節 擔保	二二四
第一款 擔保ノ請求	二二四
第二款 擔保ノ消滅	二二九
第五節 支拂	一五一
第六節 償還ノ請求	一七三
第七節 參加	一七六
第一款 參加引受	一八四
第二款 參加支拂	一九〇
第八節 保證	一九七
第九節 拒絕證書	一九七

商法手形目次終

統計ニ依リテ示セハ左ノ如シ

年度	預入額	拂戻額	現在額	平均額	人口百人ノ預入員
二十五年	二,九五四,七七〇	一,四七三,六三八	二,二八二,六〇六	二四〇	一一
二十六年	一五,五三二,一九一	一,二二〇,二七五	二六,一五五,四九八	二四六	一一
二十七年	一四,五一八,九一九	一,四七三,〇九三	二五,九〇一,三三四	二三三	三
二十八年	一八,三二七,七九二	一,五二六,三六九	二八,九六五,四二七	二三三	三
二十九年	一七,〇八一,九一一	一,七八三,〇〇〇	二八,二五一,一九七	二二一	一八六
三十年	一三,六七四,五三七	一,七三四,〇七〇	二五,七五四,二五六	二〇五	三四

第二項 財政上ノ流動公債

第一目 緒論

流動公債ノ主要ナル部分ハ財政上ノ流動公債ニ存シ財政上ノ流動公債ノ主要ナル部分ハ短期公債ニ存ス蓋シ短期ノ公債ハ歲計上一時ノ歳入不足即チ收入ニ先チテ支出ヲ要スヘキ所謂金庫上ノ不足又ハ歳入ノ減少若クハ臨時ノ歳出

等ノ爲メ一年度ノ收支相償ハナル場合即チ所謂真正ノ不足アルニ際シ一年度内又ハ三四年度ニ之カ償還ヲ期シ其年度ノ歲計ヲ結了スルヲ目的ト爲スモノナリ隨テ其不足ノ多寡ニ伴ヒ之カ公債發行額亦増減セララルモノニシテ所謂流動公債ノ名稱アル所以ナリ

蓋シ政府ノ歲計豫算ハ過去現在ヨリ未來ヲ付度シ其年度ノ收支ノ狀況ヲ精査シ以テ此カ適合ヲ計ルモノナルヲ以テ主觀的ニ歲計豫算ニ重大ナル過誤アルカ客觀的ニ豫期スヘカラサル異常ノ事變發生スルニ非スハ年度ノ終ニ於テ大ナル過不足ヲ生スルコトナキモノナリ然ルニ同一年度内ニ於テ收入カ常ニ支出ニ先ツモノニ非スシテ一方ニハ俸給廳費公債利子等支出ノ時期確定セルモノノ外ニ天變其他豫期スヘカラサル事變ノ爲メ軍事警察其他衛生植救土木等ノ内務行政ニ於テ不慮ノ支出ヲ要スル場合アリ殊ニ國家自ラ諸般ノ營業ニ從事シ又地方行政證ニ對シテ資金ノ貸主タル地位ニ在ルヨリ豫算外ノ臨時支出ヲ爲スコト多キ佛蘭西ノ如キアリ而シテ一方ニハ經常收入ノ大部ハ常ニ一定ノ期限ヲ埃チテ始メテ國庫收容セララルモノナルヲ

以テ結局其支出巨額ニ失スルコトナクシテ其年度間ノ收入ヲ以テ之カ適合ヲ計リ得ヘキモノモ時期相前後スルカ爲メニ一時資金ノ必要ヲ見ルコトアリ殊ニ經費論ニ於テ物品費ト稱セララルモノハ物價ノ高低ニ因リテ常ニ之カ費額ヲ消長スルモノナルヲ以テ物價其物ノ變動ニ伴ヒ收支ノ不適合ヲ來スコト最も多クシテ所謂真正ノ不足ヲ生スルコト少シト爲サス然レトモ其額ハ未タ確定公債ニ依ルノ要ヲ見ルコトナク三四年間ニ於テ此ノ償還スルコトヲ豫期シ得ヘキ場合アリ總テ此等ノ場合ニハ或ハ特別借入ヲ爲シ或ハ紙幣ヲ發行シ或ハ短期公債ヲ發行シ以テ此カ收支ノ適合ヲ計ルヘキコト最も便宜ナル手段ト謂フヘキナリ

流動公債殊ニ財政上ノ流動公債カ財産上必要ノ手段タルコト正ニ上述スル所ノ如シ殊ニ一般ニ短期ノ公債ナルヲ以テ利子ハ確定公債ニ比シテ遙ニ低ク而シテ一方ニハ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買移轉ノ自由アルヲ以テ國民ハ放銀ノ手段トシテ最も歡迎スル所タリ

然レトモ流動公債ニ伴フ通弊ハ此カ濫用ニ在リ若シ十分ノ成算ナクシテ流動

公債ヲ増發スレハ其償還期限ノ短期ナルニ由リ其害毒又確定公債ニ比シテ大ナルモノアリ彼ノ佛蘭西ノ千八百四十八年ニ於ケル流動公債ノ如キ其適例ヲ示スモノナリ彼ノ財政紊亂セル西班牙土耳其埃及ノ如キニ至リテハ其害毒甚旨ニ入りテ又之ヲ救済スルニ由ナキモノノ如シ故ニ流動公債ハ常ニ成ルヘク狹隘ノ範圍内ニ限リ普通ノ行政事務費ノ如キ其年以内ニ支辨シ盡シテ負擔ヲ後ニ殘スコトナカラザメ貯蓄銀行ニ對スル預金地方行政體ニ對スル貸金ノ如キハ別途ノ會計トシテ取扱ヒ後者ノ如キハ之ヲ確定公債ニ組入ルルヲ可トス「バスター」氏ノ如キハ流動公債ノ額ハ須ク確定公債ニ對スル一年ノ利子ヲ超過スヘカラス若シ確定公債ノ甚タ少額ナル處ニ在リテハ流動公債ハ歲入ノ四分ノ一ヲ超過スヘカラスト論セリ

蓋シ短期公債ハ收支ノ適合其序ヲ失フカ或ハ民力ノ疲弊其他天災地變ノ爲メ豫定ノ收入ヲ得ル能ハサルカ或ハ政府ノ信用薄弱ナルニ由リ普通ノ公債ヲ募集シ能ハサル等財政上不幸ナル現象ニ起因スルモノニシテ革命前ノ佛蘭西西班牙土耳其埃及等ノ如キ何レモ此等諸原因ノ爲メニ一時ノ急ヲ支フ

ルニ切ナルノ餘或ハ擔保ヲ附シ或ハ特權ヲ附與シ或ハ非常高利ヲ附シテ密ニ特別借入ヲ爲シ其期間ノ僅僅數箇月ニ過キサル短期ノ借入ニ一割五分ヨリ二割五分ニ至ル高利ヲ附セシ例少シト爲サス隨テ償還期限ノ到來共ニ借入額ヲ爲スヲ例ト爲シ年年歲歲新舊相累計シテ又拾收スヘカラサルニ至ル西曆千八百七十四年債權國ノ委員等土耳其ノ流動公債ヲ調査セントシテ覽ニ其額ヲ知ルル克ハナルニ至リシカ如キ又其一例ニシテ又彼ノ埃及ニ於ケル場合ノ如キ既ニ本章第三節第四款ニ於テ敘述セル所ノ如シ

本項ノ分類ニ付テハ先ニ短期借入大藏省證券及ヒ紙幣ノ三種ヲ掲ケテニ短期公債ニ付テ舉タル所ナシ蓋シ短期公債ハ有期確定公債ト殆ト其趣ヲ一ニシ唯其期間ノ長短ニ於テ特徵アルニ過キサルノミナラス所謂大藏省證券ハ短期公債ノ一種ニシテ又事實大都ヲ占ムルモノナルヲ以テノ故ノミ敢テ大藏省以外ノ短期公債ヲ認メサルニハ非サルナリ本項ニ於テハ短期借入ハ第三節第二款第二項契約公債ノ下ニ於テ既ニ其大要ヲ掲ケタレハ茲ニハ主トシテ大藏省證券及ヒ紙幣ニ付キ敘述スル所アラントス

### 第二目 大藏省證券

大藏省證券トハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ニ由リ發行スルモノトス(明治十七年九月二十四號布告第一條參照)大藏省證券ノ大藏省紙幣ト異ナルハ猶ホ商業手形ノ銀行紙幣ニ於ケルカ如シ大藏省又ハ銀行ノ紙幣ハ正貨ノ代用トシテ日用ノ流通ヲ資ケルヲ目的トス其流通ノ機能ヲ全クスル所以ノモノハ常ニ正貨ト兌換サレ得ル條件ヲ具フレハナリ商業手形又ハ大藏省證券ハ彼ノ確定證券抵當貸付及ヒ其他此種類ノ他ノ證券ト異ナリ一時ノ放銀ノ爲メニ流用セラレルモノナリ大藏省證券カ利子ヲ拂フハ短期貸付ニ於ケル利子ノ性質ヲ有シ即チ割引タルノ特色ヲ帶フ是レ長期貸付ノ利子ト相異ナル所以ナリ大藏省證券ノ發行ハ確定公債ノ如ク募集ノ方法ニ由ルコトアリ或ハ政府カ支拂ニ當リ貨幣ノ代リニ之ヲ受取ラシムルコトアリ該證券ハ多ク二三ノ銀行ヨリ借入ルルヲ常トスルカ故ニ特別借入ト相似タル所アレトモ大藏省證券ハ何人ニテモ之ヲ授受買賣スルコトヲ得同布告第五條參照又其支拂ニ對シテ貨幣ノ代リニ

證券ノ引受ヲ爲サシムル點ニ於テ異ナリ又其金額ハ毎年不足ノ多寡ニ伴フテ一定スル所ナク又之ヲ蔽フニ經常收入ヲ以テスル點ニ於テ確定公債ト異ナリ該證券ハ往時英國財政家ノ發明スル所ニシテ今日ハ各國皆此制ニ則リ財政ノ整理ヲ計ルニ至レリ是レ收支ノ時期ノ不適合ハ免レサルノ數ナルヲ以テ其度度現金ナキノ故ヲ以テ支拂ヲ停止スルノ不便ヲ避ケ一方ニハ短期內ニ償却シ得ルヲ原則ト爲スヲ以テ確定公債ヲ起スノ煩ヲ避ケルニ在ルハ先ニ叙述セル所ノ如シ我邦モ明治十七年九月第二十四號布告ヲ以テ大藏省證券條例ヲ發布シ其支拂期日償還ノ方法發行金額及ヒ利子金額等ハ豫メ規定セラル即チ無記名利附定期拂トシ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ支拂フコトト爲レリ(同布告第二條參照)隨テ人民ハ一時不用ナル資金ノ放銀物トシテ確實且ハ便利ナルカ故ニ此カ授受買賣又盛ニ行ハル支拂期限ハ通常三月六月九月十二月等ト爲スヲ例ト爲シ英佛等ニテハ一箇年ヲ超過スルモノ少カラズクリミヤ戰爭ノ當時英國カ五箇年ヲ期間トセル大藏省證券ヲ發行セシハ本論ノ首メニ於テ既ニ叙述セル所ナリ而シテ通常六箇月以下ノモノニ對シテハ利子ヲ附スル代リニ割

引ヲ爲スヲ例ト爲セリ現行法ハ證券額面高ヲ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓及ヒ十萬圓ノ六種ニ分テ其支拂期限ハ十二箇月以內ト爲シ同布告第四條參照其支拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱ヘシム同布告第六條參照)

大藏省證券ハ財政上便利ナル方方便ナリト雖モ物品買上ニ際シ該券ヲ以テ交付スルハ結局政府ノ不利益ヲ來スヘキコトハ本章第四節第一款第一項中支拂額制公債ニ付テ論スル所ト相同シ而シテ現行法モ上述セル該券濫發ノ通弊ヲ制止センカ爲メ明治二十二年二月法律第四號會計法第九條ハ明カニ毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シ明治三十二年二月二十二日公布ノ明治三十二年度ノ豫算第四條ハ其最高額ヲ三千五百萬圓ニ限レリ

大藏省證券ニ付テ最モ歴史ヲ有スルハ英佛ノ二國トス此等ノ國ニ在リテハ漸次年ヲ逐フテ其額ヲ減少シ整理ノ步武ヲ進ムルヲ見ル殊ニ英國ニ於テハ西曆千六百九十一年ヨリ千七百十一年マテハ流動公債ハ常ニ確定公債ノ額

ニ超過セシモ千七百十二年以後ハ確定公債ノ額ニ下リ千七百五十五年ノ如キ其高大ニ減少シテ僅ニ七百三十六萬五千圓ニ過キサリ然レトモ千八百七年ヨリ千八百十九年ニ至ル維納會議ノ前後ハ再ヒ増加シテ四億圓ヲ昇降シ其後千八百四十年マテハ二億圓ニ上下シ其後千八百六十二年マテハ一億六千萬圓ト二億圓ノ間ヲ昇降セリ但シクリミヤ戰争ノ時ハ二億八千萬圓ニ上レリ爾後漸次減少シテ八千萬圓ヲ上ルコトナク率テ千八百七十四年ニハ四千四百八十萬圓ト爲リ僅ニ確定公債ノ千分ノ五ヲ占ムルニ過キサリ然レトモ其後漸次再ヒ上騰シテ千八百七十七年ニハ一億四千萬圓ト爲レリ是レ露土戰争蘇士運河株券四千萬圓ノ買收等ニ起因スルモノニシテ其後印度亞弗利加等ノ事變ニ因リ尙ホ多少増加スルニ至レリ蓋シ英國ノ大藏省證券ハ數年ニ亘ルモノ多ク我國ト大ニ趣ヲ異ニスル所アリトス

佛國ニテハルイフヒリツゾア時代ニ流動公債大藏證券及ヒ貯蓄銀行ノ預リ金ハ一億圓ヨリ三億圓ニ上リ西曆千八百四十八年ニハ革命政府之ニ代リテ又此カ處分ニ窮シ銀行預金ノ拂戻ヲ減センカ爲メニ其利子ヲ五分ト爲セシ



モ尙ホ此カ拂戻ヲ停止スルコト能ハス迄ニ之ニ對シテ公債證券又ハ大藏省證券ヲ付與シ尙ホ大藏省證券ノ期限ヲ延長シタリ然レトモ此發行價格ト價值却價格トノ差異ヨリ生スル利益ハ證書組換ニ因リテ直チニ現金ヲ得ル能ハサルノ不利益ト相償フニ足ラス大ニ人民ノ不平ヲ喚起シ政府財政ノ失態ヲ重スルニ至レリ其後尙ホ流動公債ノ總額ニ至リテハ千八百六十四年ノ如キ四億圓ヲ上リ千八百七十年ニハ猶ホ三億圓ヲ上下シタリ然レトモ大藏省證券ハ千八百四十八年ニハ一億一千三百萬圓ナリシモ千八百七十年ニハ三千六百萬圓千八百七十八年ニハ七百萬圓ト爲リ近時大藏省證券ハ人民ニ於テモ大ニ其利便ヲ感シ利子ハ期限ノ長短ニ由リ半朱ヨリ一朱マテニテ自由ニ發行スルコトヲ得ルニ至レリ

蓋シ此種ノ流動公債ハ通常公債ヨリモ預ケ人カ現金取得上ノ便アルニ由リ低キ利子ヲ以テ發行スルコトヲ得若シ此制ヲ全廢センニハ財政上必ス別ニ相當ノ準備ヲ要スルカ又ハ年年相應ノ歲入剩餘ヲ殘ナスンハ非ス然ルニ國庫準備金ノ弊害ハ既ニ第一章ニ於テ詳論スル所ニシテ此カ爲メニ永ク租額

ヲ重課スルノ弊害ハ元利償却ノ爲メ一時租額ヲ増スノ弊害ニ比シテ遙ニ大ナルモノナリトス

### 第三目 紙幣

紙幣ハ或ハ本紙幣ト準紙幣ニ分チ本紙幣ヲ一ニ狹義ノ紙幣國家紙幣又ハ本位紙幣ト稱シテ硬貨ノ代用ヲ爲ス價格ノ表章ヲ爲ス物ヲ指シ紙ヲ以テ作り強制的ニ通用シテ兌換ナキモノナリ所謂不換紙幣ト稱スルモノニシテ既ニ本章第四節第二款第二項強制公債ノ下ニ詳述セシ所ナリ

準紙幣ハ紙ニテ作り價格ノ表章タルニ於テ一ナリト雖モ強制シテ通用セザルモノニシテ兌換シ得ヘキモノナリ不換紙幣ト準紙幣ノ中間ニ強制的ニ通用セザル不換紙幣ト強制的ニ通用スル兌換紙幣ノ二アリ其ニ準紙幣ト稱スルヲ例ト爲ス然レトモ通用ノ強制力ヲ有スルモノハ本紙幣ト同様ノ性質ヲ有スルモノニシテ等シク間接ノ強制公債タルヘキナリ其孰レニ屬スルヲ問ハス其金額ノ増減常ナク發行者ノ希望ハ短期間ニ回收スルニ在リテハ一ナルヲ以テ共ニ

流動公債タルコトヲ妨ケタルナリ

準備紙幣ハ流通ノ強制力ナキカ兌換ノ義務アルカ又ハ二者ヲ兼有スル紙幣ナルヲ以テ何レモ外面上銀行手形ノ性質ヲ有スルモノナリ然レトモ其發行者ヲ異ニシ且ツ其發行ノ制限ハ最モ注意ヲ要スルモノタリ兌換準備金ヲシテ紙幣ト同額ナラシムルハ特ニ兌換紙幣其モノヲ發行スル效果ヲ失ハシムルモノニ外ナラス又準備少キニ失スルカ又ハ少キニ失スルコトナキモ正貨ヲ以テセザルトキハ一朝事變ニ際シテ兌換ノ請求ニ應スルコト能ハス國家ノ信用ヲ失墜セシムルニ至ルヘシ即チ兌換紙幣發行法ノ問題ハ財政上重要ニシテ研究ノ必要大ナルモ由來貨幣論ノ主トシテ論究スヘキモノナレハ此ヲ略シ唯我邦現行ノ兌換紙幣發行法ノ大要ヲ述フルニ止メントス

兌換紙幣發行權ハ日本銀行條例第十四條ニ依リ日本銀行之ヲ有ス其細則ハ幕ケテ明治十七年五月第十八號布告十八年第九號布告二十一年勅令第五十九號二十三年法律第三十四號及ヒ三十年法律第十八號ニ在リ兌換紙幣ノ兌換正貨ハ金貨ニ限ラレ兌換銀行券條例第一條合法貨幣トシテ租稅海關稅其他一切ノ

取引ニ通用スルコトヲ得同第四條但シ引換ハ日本銀行ニ於テ營業時間中之ニ應シ唯支店ニテハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間ノ延期ヲ爲スコトヲ得同第六條若シ反對ニ金貨ヲ以テ兌換券ト引換ヘンコトヲ請フ者アルトキハ無手数料ニテ之ニ應スルモノトス同第七條其種類ハ一圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓二百圓ノ七種ニシテ同第三條其發行額引換準備ノ規定ハ兌換銀行券條例第二條ニ定ムル所タリ即チ

日本銀行ハ兌換銀行發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及ヒ地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及ヒ銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

日本銀行ハ前項ノ外特ニ一億二千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ本項一億二千萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ依リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大

臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他雜實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但シ其割合ハ其時時大藏大臣之ヲ定ム

即チ獨逸制ニ換シテ又之ニ勝レリト爲ス所ニシテ金貨金地金四分ノ一マテハ銀貨銀地金ニテモ宜シノ引換準備ニ對シテハ固ヨリ無制限トシ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他雜實ナル證券又ハ商業手形ノ保證ニ對シテハ九千三萬圓ハ絕對的ニ許サレ二千七百萬圓ハ二十二年以降ノ國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限度トシテ許サレ其以上ハ大藏省ノ許可ト五分以上ノ發行稅ヲ條件トシテ許可セラルルモノト爲スナリ

兌換紙幣發行額引換準備ニ付キ一言注意ヲ要スヘキハ明治三十一年四月在來ノ制限高八千五百萬圓ヲ擴張シテ一億二千萬圓ト爲シ而モ爾後今日ニ至ルマテ猶ホ舊ニ依リテ繼續制限外ノ發行ヲ爲スコト是ナリ  
由來制限額ヲ擴張セルハ在來ノ制限ノ下ニ在リテハ勢ヒ制限外ノ發行ヲ防

止スルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ異例ノ發行ヲ來スヘキ場合ヲ減殺セんとスルニ在ルコト固ヨリ言フ埃タサル所ニシテ若シ制限外ノ發行キ平時相次テ起ルトキハ所謂制限外ノ制限外タル所以ノモノ根本ヨリ破却セラレ毫モ亦制限其モノヲ認ムルノ要ナキニ至ルヘシ之ヲ歐洲ニ於ケル重ナル實例ニ徵スルモ英國ニ在リテハ現行兌換銀行券條例ハ一千八百四十四年ノ制定ニ係リ今日ニ至ルマテ六十年ニ近キ歲月ニ於テ條例ノ停止即チ兌換ノ停止ヲ爲セルコト前後三回ニ止マリ英國銀行カ制限外ノ發行ヲ爲セルハ一千八百五十七年ニ於テ前後後唯一回ヲ見ルニ止マリ爾後四十餘年又制限外ノ發行ヲ見ルコトナシ又獨逸ニ於テハ一千八百七十五年帝國銀行條例制定セラレテヨリ今日ニ至ルマテ二十有五年ノ間未タ一回モ制限外ノ發行ヲ見タルコトナシ然ルニ我邦ニ在リテハ明治十七年制定後明治二十三年三四月ノ交五分利附五十萬圓ノ制限外發行アリ二十七年十二月二十九日第二次ノ制限外發行ヲ爲セシヨリ年年又制限外ノ發行ヲ見サルコトナク三十年ニハ七分利ノ六分利附ニテ尙ホ五千萬圓ニ近キ發行ヲ爲シ爾後八千五百萬圓ノ制

限ヲ一億二千萬圓ニ増加セシニ拘ラス尙ホ制限外ノ發行ヲ見ヤルコトナシ  
蓋シ此ノ如キ喜フヘカラサル現象ヲ見ル所以ノモノハ一ニ制限高ノ高低ヲ  
以テ直チニ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ唯一ノ方策ナリト解誤セル結果ニ外  
ナラスシテ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ莫クハ制限外ノ發行額ニ課スヘ  
キ發行税ノ高低ニ存スルコトヲ忘却セルモノナリトス換言スレハ制限外ノ  
發行ヲ爲スハ金融逼迫ノ爲メニ生スヘキ經濟界ノ害毒ヲ救正スル手段タル  
カ故ニ我國ノ如ク居常金利ノ六分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五分以上ノ  
發行税ヲ條件ト爲ストキハ居常尙ホ日本銀行ハ制限外ノ發行ヲ爲シテ市場  
ノ金利ト發行税ノ差額ニ因リ多少ノ收益ヲ得ヘク所謂金融逼迫ノ際ニ於ケ  
ル救正方法タル非常手段ヲシテ平素濫用セシムルノ途ヲ閉ケルモノニ外ナ  
ラス即チ歐洲列國ノ如キ平時ノ金利カ二分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五  
分以上ノ發行税ニ甘シテ尙ホ制限外ノ發行ヲ爲スハ必スヤ金利ハ少クトモ  
五分以上ニ昂騰シタル金融逼迫ノ秋ニ外ナラサルヘキモ我邦ノ如キ五分以  
上ノ金利ヲ以テ平時ノ常況ト爲ス經濟界ニ於テ等シク五分以上ノ發行税ヲ

條件ト爲スハ權衡ヲ失スルノ甚シキモノニシテ之ヲ歐洲各國ノ立法例及モ  
實際ニ對照シテ發行税ヲ少クトモ一割以上ト爲スニ非スルハ所謂非常手段  
ノ非常手段タル效果ヲ保持スルニ由ナク事實金融逼迫シテ爲メニ制限外ノ  
發行ヲ要スルカ如キ場合ニ至ラサルモ漫然一部起業家ノ要求ニ驅ラレ自己  
ノ多少ノ收益ニ眩惑シ制限外ノ發行ヲ濫用スルニ至ルハ又甚モ怪シムニ足  
ラサル所ナリトス

### 第三款 確定公債

#### 第一項 緒論

單稅論カ租稅制度トシテ實際理論共ニ不可アルカ如ク國家財政上單一ナル公  
債ノミニ依リテ收支ノ適合ヲ計ルコトハ又等シク事理ヲ得タルモノニ非ス流  
動公債ト曰ヒ確定公債ト曰フ各特有ノ長處アリ二者其一ヲ捨ツヘカラス宜シ  
ク臨時支出ノ性質ト財政ノ狀況ニ應シ其間ニ權衡ヲ保持シ斟酌ヲ加フルコト  
財政整理上重要ナル事項ニ屬セリ

確定公債ノ流動公債ニ勝レル點ハ其期限ノ長期ナルト其償還ニ急切ヲ要セス  
 裁量ノ餘地多キヲ以テ國庫ノ急迫ヲ告ケルコトナキニ在リ國家ノ信用ヲ失墜  
 シ市場ノ恐慌ヲ來スノ患ハ常ニ短期ノ公債ニ於テ之ヲ見ルコト多ク殊ニ兌換  
 紙幣等ニ於テ然リト爲ス然レトモ公債ノ一部ニ偏重スルハ固ヨリ喜フヘキ現  
 象ニ非ス其借用期限ノ長期ナルニ安シク此カ償還ヲ等閑ニ付シ逐次累積シ  
 テ後世ノ負擔ヲ大ニスルニ至レハ率テ國家ノ信用ヲ削キ公債ノ發達進步ヲ阻  
 害スルコト又言ヲ俟タサルナリ

蓋シ確定公債ハ唯リ財政上政府ノ信用ニ止マラス一國ノ信用ヲ利用スルモノ  
 ニシテ國民ノ負擔力ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ蓋シ其國民ノ負擔額ニ至  
 リテハ確定公債ノ總額ノ大小政府ノ收入額ト國民ノ收入額ノ比例確定公債ノ  
 利子ト市場利子ノ比率等ヲ標準トシ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ要ス  
 ヘキモ結局確定公債カ人民ノ負擔ヲ増スハ明カナルヲ以テ現時ノ立憲國ニ在  
 リテハ何レモ憲法ニ依リ帝國議會ニ確定公債募集許否ノ權ヲ留保スルヲ例ト  
 爲シ又一方ニハ公債原簿ノ調製及ヒ記入公債證書ノ發行證書額面ノ記入ヲ爲

シ法令ニ依リテ募集ノ方法拂込ノ期限利子ノ歩合償還ノ方法等ヲ規定シ以テ  
 債權者ノ權利ノ確實ヲ保障スルニ至レリ

確定公債ハ大別シテ二種ト爲ス有期確定公債及ヒ無期確定公債是ナリ今此區  
 別ヲ述フルニ先テ先テ確定公債ノ過去將來ニ亘ル大體ノ趨勢ヲ一言スヘシ  
 紀元十八世紀ノ末葉ニ至ルマテ所謂確定公債ト稱セラルルモノモ其實質ハ全  
 ク流動公債ト其趣ヲ一ニセリ即チ其償還期限短期ナリシノミナラス豫定ノ償  
 還期限滿了ノ有無ニ拘ラス債權者ハ自己ノ利害關係ヨリ臨時公債償還請求ノ  
 權利ヲ有シ又負債主タル政府モ財政上ノ便宜ニ從ヒ必スシモ豫期ノ年限内ニ  
 償還セサルコト少シト爲サス此ノ如ク償還期限短期ニシテ其償却方法モ亦確  
 定セサルヲ以テ政府ノ財政調和劑タル公債ハ却テ政府財政整理ノ累ヲ爲スニ  
 至リタリ是レ政府ノ財政ノ緩急ニ拘ラス償還ノ義務急迫ナルヲ以テ公債額ノ  
 増加ト共ニ却テ政府ノ負擔ヲ大トスルモノナレハナリ而シテ此弊害ハ消費公  
 債ノ多キ當時ニ於テ殊ニ甚シク政府ハ償還ノ時期方法等ヲ自ラ規定シ債權者  
 ノ容喙ヲ許ササルノ必要益大ナルヲ見ルニ至レリ彼ノ外國債ヲ以テ絕對ニ有

害ナルモノトシ之ヲ非難スル者多カリシハ當時ノ公債制度ニ於テ又故アリト謂フヘキナリ

消費公債トハ重ニ戰時事變ニ一時ニ消費セラレ之ニ應スヘキ有形的收入ノ存セサルモノニシテ他ノ收入ニ依リテ之カ償還ヲ計ルヘキモノナリ所謂國民ノ負擔ヲ増スコト大ナルモノニシテ非常公債ハ多ク此種ニ屬スルモノナリ

貯蓄公債トハ又事業公債或ハ間接抵當公債ト稱セラレ其公債ノ消費ニ伴ヒ直接ニ政府ノ收入ヲ増セ間接ニ人民ノ幸福ヲ増進スルモノナリ故ニ償却ノ方法期限等之ヲ豫定シ易キモノニシテ經濟上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリ

固定公債ハ又借換公債ト曰ヒ財政整理ノ爲メ流動公債又ハ確定公債ヲ固定公債ニ變更シタルモノニシテ財政上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリトス

第十九世紀ニ至リテ各國皆公債ヲ募集スルニ當リ先ツ債權者ノ容喙ヲ禁レ

還期限ヲ長クシ財政上ノ緩急ニ應シテ辨濟スルノ主義ヲ執リ彼ノ減債基金法ノ如キモ此段階ニ於ケル一ノ方便トシテ政府ノ信用扶持ノ爲メニ用ヒラレ記名ノ制ニ依リテ債權者ノ權利ヲ確保セラレタリ爾後信用經濟ノ發達ニ伴ヒ減債基金法ハ廢セラレ無記名ニ代リ擔保又ハ花札附ノ制度ハ廢セラレ償還期限ハ漸次延長セラレ遂ニ償還期限ノ長短ハ又應募力ヲ左右スルノ力ナク所謂無期ノ公債ト云ヒ永久ノ公債ト稱セララルモノノ認メラルルニ至レリ

### 第二項 有期確定公債

#### 第一目 割増公債

割増公債ハ必スモ無期確定公債ニ適用スルコト克ハサルモノニ非スト雖モ通例有期確定公債殊ニ比較的短期ニシテ少額ナル公債ニ適用セララルモノニシテ元金及ヒ利子ノ償還支拂ノ外籤札ヲ附シ其當選者ニ利拂ノ際別ニ金額ヲ付與スル公債ナリ其體様ニ至リテハ種別甚タ多シト爲ス

割増公債ニ對スル消極論者ハ此ヲ三種ニ分ツコトヲ得道徳上ヨリ觀察セル消

極論者法律上ヨリ觀察セル消極論者及ヒ財政上ヨリ觀察セル消極論者はナリ  
 道徳上ヨリ觀察セル消極論者ハ割増公債ハ勉強儉約才能ノ外人民ヲシテ富ヲ  
 得ルノ道アルコトヲ指示スルモノニシテ投機心ヲ誘導スルモノナリト云フニ  
 在リ彼ノ「フランクリン」氏カ勢力者ニ告ケシ語即チ入アリ汝ニ勉強ト儉約ニ由  
 ラスシテ富ヲ得ルノ道アリト教示セハ之ヲ以テ汝ニ毒ヲ與フルモノトセヨ」ト  
 言ヘルカ如キ又此精神ヲ表彰スルモノニシテ道徳上復タ一點ノ非議ヲ容ルヘ  
 カラザルモノナリ

法律上ヨリ觀察セル消極論者ハ抽籤ニ依リテ射利ヲ爲サシムルハ文明國ノ法  
 文上明カニ禁スル所ナリ政府カ割増公債ヲ發行シ又ハ此カ發行ヲ許スハ自ラ  
 刑法ノ正文ニ悖戾スルモノナリト云フニ在リ蓋シ富籤及ヒ之ニ類似セルモノ  
 ハ其掛金少ク富籤金ノ不均ナルニ從ヒ廣ク社會ニ流行セテ其大多數ハ蒸  
 還ノ爲メ自己ノ貯蓄ヲ消耗シテ恒心ヲ失ヒ投機ノ惡風上下ニ浸潤スルニ至ル  
 モノナリ「シザアリ」氏ハ千八百七十年佛蘭西上院ニ於テ報告セル一部ニモ  
 「富籤ハ第一多數ノ利益ヲ剝奪シ僥倖ニ由リ之ヲ少數ニ與フルモノナリ第二籤

札發行者ト其買入人トハ平等ノ地位ヲ占ムル能ハス其利益ヲ得ルノ機會ハ發  
 行者ニ多ク籤札買入人ニ少シト云ヘリ

千八百三十六年ノ佛蘭西法律第二條ニハ富籤ヲ以テ僥倖ヨリ出ツル利益ヲ  
 與フル所ノ動産不動産若クハ商品ノ賣買及ヒ其他一般ニ僥倖ヲ以テ公眾ニ  
 利益ヲ得ヘキ望ヲ置カシムル所行ハ總テ之ヲ富籤ト認メ一切之ヲ禁止スト

アリ我國現行刑法第二六二條參照

財政上ヨリ觀察セル消極論者ハ濫用ノ弊害大ニシテ且ツ此カ管理ニ困難ナリ  
 ト云フニ在リ蓋シ多少人民ノ僥倖心ヲ利用スルコトハ頗ル便利ニシテ所定ノ  
 需要額ヲ容易ニ收メ得ヘキニ由リ濫用ノ極所謂法文禁制ノ純然タル富籤ト同  
 一ノ現象ヲ呈スルニ至ルコトアリ彼ノ土耳其鐵道會社發行ノ籤札附社債ノ如  
 キ一口ノ當籤二十四萬圓ノ巨額ニ上リ又バルレタ府ノ地方債ノ如キモ掛金僅  
 ニ八圓ニシテ無利子トシ一方ニ當籤金ヲ不當ニ大ナラシメシカ如キ其ニ濫用  
 ノ極ニ失セルモノニシテ一方ニハ國民ノ投機心ヲ挑發シ一方ハニ不公平ナル  
 富ノ分配ニ由リ多數ノ失産者ヲ生セシムルノミナラス政府ハ信用ヲ失墜シ將

財政ノ伸張力ヲ絕對ニ抑壓スルニ至ルモノナリ信用經濟ノ發達セル國民ハ  
 割増制度ナルモノハ不信用ヲ自白セルモノトシ却テ募集ニ應セザルヲ例ト爲  
 スニ至ルハ既ニ現時英國等ニ於テ見ル所ナリトス  
 割増公債ノ管理上困難ナリト云フハ其取扱方法ノ錯雜ヲ極ムルノミナラス巨  
 額ノ公債ハ五十年百年ヲ期シテ償還ヲ了ル能ハサルモノナルニ其間ニ便宜借  
 換ヲ爲スヘキ好機ニ際遇スルモ之ニ應スルコト克ハサルノ不利アリ是レ當初  
 ヲリ低利ヲ以テ募集シ利子ノ外ニ尙ホ割増金ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果  
 ニシテ巨額ノ公債ニ割増法ヲ採用スヘカラスト爲ス理山又茲ニ存ス  
 以上ハ割増公債ニ對スル消極論ノ大要ナリトス固ヨリ割増ノ性質タルヤ道德  
 ノ原則ニ違背セル變則ノ手段ニシテ若シ其方法ニシテ宜キヲ得サレハ其害毒  
 ノ恐ルヘキ又一財政問題トシテ默過スヘキモノニ非ス然レトモ其額巨大ニ失  
 セス其方法ニシテ宜キヲ得ンニハ又絕對ニ非難スヘカラサルモノニシテ以テ  
 間接ニ下級人民ノ勤儉貯蓄ヲ獎勵シ所謂道德上及ヒ法律上ノ非難ヲ事實ニ於  
 テ之ヲ防遏ナン得サルニハ非ス即チ此等ノ弊害ヲ避クヘキ重ナル方法ハ大凡

次ノ如キ

- 第一 割増附ノ公債證書ニハ必ス全般ニ利子ヲ附スヘシ但シ一方ニ割増金  
額ヲ支フル範圍内ニ於テ成ルヘク通例ノ歩合ト差異ノ少キコトヲ要ス
- 第二 當籤ノ數ハ成ルヘク多クシテ其一箇ノ當籤額ノ巨額ナラサルコトヲ  
要シ一方ニハ割増金總額ハ其割増公債ノ利子ノ低下ナルニ由リ生スル利  
得額ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 第三 元金ノ償還ハ必ス拂込高ヨリ下ルコトナキヲ要ス
- 第四 割増抽籤ノ度數ハ一年二回ヲ超ユルコトナキヲ要ス
- 第五 割増公債ノ總額ハ巨大ニ失ヘス且ツ其償還期限ハ長期ニ亘ラサルコ  
トヲ要ス

之ヲ要スルニ割増公債ハ公債ノ常道ニ非スシテ一時臨機ノ一方便タリ英國ニ  
 在リテハ今世紀ノ初期ヨリ全ク廢棄セラレ普國ニ在リテハ千八百五十五年以  
 後復タ此公債ノ發行サレシヲ聞カス佛伊兩國ニ於テ猶ホ行ハルルモノノ如キ  
 モ各國ヲ通シテ漸次廢絶ニ趨クモノノ如ク我國ニテハ近時勸業銀行ニ割増附



社債ノ發行ヲ認メシ外復タ其例ヲ聞カス其方便ニシテ時ト處ニ依リ絕對ニ非  
議スヘキモノニ非サルモ唯一時ノ手段トシテ最モ此カ方法ニ付キ慎重ノ措置  
ヲ執ルヘキコト論ナキナリ

### 第二目 年金公債

年金公債トハ政府カ借入タル一定ノ金額ヲ償還スルニ際シ其債權者ニ利子ト  
元金ヲ區別スルコトナク元利ヲ込メタル金高ヲ年賦ヲ以テ償還スル公債ナリ  
年金公債ハ其元金ト利子ヲ區別セサル點ニ於テ他ノ公債ヨリ分チテ之ヲ論述  
スル者少カラス然レトモ元金ト利子ヲ區別スルノ有無ハ流動確定ノ二公債ノ  
圏外ニ置クノ必要ナキヲ以テ予ハ此ニ確定公債中ノ有期公債ノ一部ニ編入シ  
タリ定期年金ノ有期公債タルヘキハ固ヨリ異論ナキノミナラス終身年金ト雖  
モ永久公債ニ比シテハ政府カ財政ノ緩急ニ從ヒテ元金ヲ償還スルコトヲ得永  
久ニ償還ノ義務存在セサル點ニ於テ全ク其性質ヲ異ニシ唯其償還ノ最終期限  
カ不確定ナルニ過キサルヲ以テ共ニ一種ノ定期定期公債ト視ルヘキモノナリ

ハナリ  
年期間債ヲ分チテ終身年金及ヒ定期年金ト爲ス  
年金年賦ノ方法ハ定期年金ノトキハ其定期ノ期間ヲ標準トシ終身年金ノト  
キハ死亡生殘表ニ據リテ一定ノ期間ヲ標準トス故ニ今定期年金ノ約定期間  
ヲ十年又ハ終身年金ノ請求者五十歳ニシテ十年間生存スヘシト豫定セル場  
合ハ債權者ハ其債權成立ノ年ヨリ次ノ比例ヲ以テ年賦額ヲ受取ルコトト爲  
ルヘシ

- 第一年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金總額ノ利子
- 第二年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ九ノ利子
- 第三年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ八ノ利子

以下略之

然レトモ此方法ハ政府ノ手數ヲ増スノミナラス債權者モ毎年額ノ差異アル  
ハ好マサル所ナルヘキヲ以テ通例右表ノ年年遞減スル利子ノ總額ヲ元金ニ  
加算シ此ヲ十分シテ毎年一定額ヲ支拂フヲ例ト爲セリ

甲 終身年金公債

終身年金公債ハ其債權者ノ終身間年年元利ヲ込メタル一定ノ年購金ヲ支拂フ公債ニシテ其債權者ノ死亡カ豫定期限ヨリ先ツヤ否ヤニ由リテ損益ノ一定セサルモノナリ此公債ハ子孫ニ財産ヲ殘スコトヲ要セス年年一定ノ金額ヲ得テ餘命ヲ送ラントスル者等ニ便利ナル方法キビテ殊ニ「トントン」法ニ至リテハ多少僥倖心ヲ利用シテ往時盛ニ行ハレタルモノナリトス然レトモ近時一般ニ政府及ヒ民間ニ貯金ノ機關設備セラレ殊ニ生命保險ノ制行ハルルニ及ヒ漸次其跡ヲ絶ツニ至リ近時終身年金ノ變形トモ視ルヘキ政府ノ生命保險法ニ由リ其殘影ヲ殘スニ過キス

英國ニ於テ「ハビット」以前ニ盛ニ行ハレ殊ニ「ウヰリヤム」第三世ハ百磅ノ拂込ニ對シ拂込人又ハ其指名人ニ終身十四磅ヲ支拂フコトヲ約シテ百萬磅ノ公債ヲ起セシコトアリ

終身年金ノ複雜セル「トントン」法ナルモノアリ此法ハ同年齡ノ人ヲ集メ之ヲシテ同一ノ年金ヲ有スル年金證書ヲ購買セシメ政府ハ常ニ年年一定ノ年金ヲ其

加入者ノ全滅スルマテ支拂フモノナリトス故ニ加入者ノ年ヲ逐クテ死亡シ其數ヲ減スルニ從ヒ其生殘者ノ受領スル分額漸増スルモノトス此方法ハ第十七世紀伊太利ノ銀行家「ローレン」トントンノ意匠ニ係ルモノニシテ英佛各國ヲ通シテ盛ニ行ハレシモノナリ但シ此トントン法ハ財政學上ノ價值ヨリモ死亡生殘表ノ根原トシテ人口統計ニ密接ナル關係ヲ有シ統計學上最モ重要ナルモノトス

「トントン」法ノ實例ヲ一一此ニ列舉スルハ煩雜ニ堪ヘサルヲ以テ此ニ英佛二國ニ於ケル「トントン」法ノ重ナル場合ヲ摘記スルニ止ムヘシ  
佛蘭西ニテハ路易十四世ノ朝千六百八十九年及ヒ千六百九十六年ニ「トントン」法ヲ行ヒシニ千七百二十六年ニハ唯一婦人ヲ殘スニ至レリ此婦人ハ九十六歳マテ生存シ上述第一及ヒ第二ノ「トントン」ニ各百二十圓ヲ拂込ミ一人ト爲リテヨリ二萬九千四百圓ノ年金ヲ受クルニ至リタリ

英國ニ於テ千六百九十二年千七百六十六年及ヒ千七百八十九年ノ三次「トントン」法ヲ行ヒタリ但シ死亡生殘ノ統計明カナラサルヨリ成效セス却テ愛

團ニ於テ千七百七十三年同七十五年及ヒ同七十八年ノ三次ニ行ヘルトシテ  
ン法其效ヲ奏シタリ

乙 定期年金公債

定期年金公債トハ政府カ其債權者ニ所定ノ期間年年元利ヲ込メタル一定ノ年  
賦金ヲ支拂フ公債ニシテ英國ニ於テ最モ盛ニ行ハレシモノニシテ其最長期間  
ハ九十九年ナリキ蓋シ定期年金公債ノ利子ハ通常公債ノ利子ヨリ多キヲ例ト  
爲シ又其期間ノ長短ニ依リテ相異ナリ是レ本項緒論ノ際叙述セルカ如ク年年  
等一ノ額ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ナリトス  
定期年金ハ其債權者ノ生死ヲ問ハサルモノナルヲ以テ一方ニハ此カ自由ノ買  
買授與ヲ許スヲ例ト爲シ若干年間其資金ニ對シテ定期ニ最大ノ收入ヲ得ルニ  
便利ナル方法ナリトス殊ニ學生ノ如キ若干年ノ後成業ヲ期シ得ヘキ者カ其期  
間内ノ放銀ノ手段トシテ最モ其效果多キモノトス又政府ニ於テモ他ノ公債ノ  
如ク一時ニ巨額ノ元金支拂ヲ爲スノ要ナク年年元金ノ一部ヲ支拂ヒ不知ノ間  
ニ之ヲ償還シ盡スノ利アリ英國ニ在リテハ此定期年金ノ制ヲ單獨ニ用ヒス低

利ノ永久公債ノ債權者ニ對シ其低利ノ補償手段トシ用ヒラレシコト多シ

千七百年ニ英國ノ永久公債ノ利子ハ僅ニ二百六十圓ナリシモ年金終身年金

ヲ包含ス支拂高ハ一千二百餘萬圓ニ上リ千七百十一年ニハ猶ホ六百七十

萬餘圓ノ利子ニ對シ九百十二萬餘圓ノ年金ヲ支拂ヒタリ千八百六十九年ニ

ハ永久公債ノ利子ハ二億二千八百餘萬圓ニ上リ年金支拂額ハ四千餘萬圓ニ

上リ其比率ハ遙ニ下リシモ其絕對額ハ又巨額ニ上レルモノト謂フヘキナリ

佛蘭西ニ於ケル年金ハ英國ノ年金ト異ナリテ政府カ國立銀行鐵道會社其他地

方團體ニ支拂フヘキ年金即チ予カ第四節第二款中契約公債ノ下ニ於テ補給金

トシテ舉ゲシモノノ外向ホ有期定額支拂ノ公債大藏省證券ヲ含ムヲ包含セリ

隨テ全ク此ニ之ヲ詳述セルノ要ナキモノニシテ千八百七十六年ニハ其年金支

拂豫算高ハ六千八百八十萬圓千八百八十一年ニハ一億四千三百餘萬圓ナリシト

云フ  
上述スル所ニ據リ終身及ヒ定期年金公債ノ概念ヲ述叙シタリ而シテ此年金公

債ハ固ヨリ其體様ノ輕重ニ依リ一様ニ論斷スヘカラスト雖モ債權者ニ於テ便

利ナル方便ナリトス然レトモ財政上概シテ弊害多キモノトシ現時年金制度ハ漸次其跡ヲ收ムルニ至レリ是レ一方ニハ生命保險又ハ貯金ノ方便完備スルカ爲メ其必要ノ度ヲ減セシノミナラス一方ニハ其體操如何ニ依リ民間ノ資本ヲ吸收スルノ害アルト共ニ長期ノ年金公債ハ通常公債ノ如ク時ノ便宜ニ依リ之ヲ借換又ハ償還ヲ完了スルニト克ハス必ス元金ノ一部及ヒ利子ヲ定期ニ支拂フノ要アレハナリ

之ヲ要スルニ年金ノ制度ハ今日ニ於テハ唯郵便貯金・年金ノ制ノ如ク少額ニ限り一種ノ行政上ノ公債トシテ認ムルハ猶ホ可ナリト爲スモ政府カ財政上巨額ノ收入ヲ得ンカ爲メ不利益ナル條件ヲ以テ募集シ財政ノ緩急ニ應スルコト能ハス定期ニ定額ノ元利支拂ヲ爲スハ財政上執ラサル所ニシテ十七世紀十八世紀ニ通シテ盛ニ行ハレシモ畢竟政府カ國內ニ存スル債務ニ對シテ利子ヲ支拂フモ人民ハ決シテ損害ヲ被ラヌト斷定セル誤見ニ基クモノニ外ナラス隨テ近時社會政策主義ノ發達ハ年金制度ハ又國民ノ多數ヲシテ國民ノ一部ニ支配ヲ爲サセムル所以ヲ闡明シ社會政策上即チ富ニ所得分配上ヨリ觀察セテ等シク

其無益有害ナルコト一般ニ證明セラルルニ至レリ

第十七世紀第十八世紀ニ際シテハ一般ニ公債ヲ以テ其金額ニ比例シテ社會ノ富ヲ増殖スルモノナリトシ公債ヲ以テ絕對ニ利益アルモノトセリ其利害得失ノ如何ハ又茲ニ辯明スルノ要ナキヲ以テ茲ニハ此等論者ノ重ナル所説ヲ列擧スヘシ

「ワボルチール」氏曰ク若シ政府カ内國人ニノミ公債ヲ募ルトキハ該國ハ決シテ衰頹スルコトナク却テ各種ノ事業ヲ獎勵スルモノナリト

「ムロン」氏曰ク政府ハ其公債ニ因リテ衰頹ヲ來スコトナシ如何トアレハ其利子ハ右手ヲ以テ之ヲ收入シ左手ヲ以テ之ヲ支給スルモノナレハナリト

「バルケリー」僧正曰ク公債ハ一種ノ金坑ナリト

「ピントウ」氏曰ク公債ナルモノハ其額面ノ金高ニ等シキ資本ヲ以テ國家ノ富ヲ増加スルモノナリト

「ジュブレイス、セイ、レラン」氏曰ク政府ハ公債ヲ募リ以テ一時世間ニ流通スル資本ヲ奪フト雖モ常ニ直チニ之ヲ返還シテ復タ之ヲ融通セシムルモノナリ

如何トナレハ政府ノ公債ヲ募集スルハ之ヲ支出セシカ爲メナレハナリト  
 「カニール」氏曰ク英國ノ繁榮ハ一ニ公債ニ存スルモノナリト  
 威學者曰ク公債ハ大砲ノ如シ若シ彼國民之ヲ用フルトキハ此國民モ亦之ヲ  
 用ヒスシハ危難ヲ避クルコト能ハサルモノナリト  
 以上列擧スルカ如キ思想ノ行ハレシ際ニ在リテハ年金ヲ他ノ公債ヨリ尊重  
 セルハ又怪ムニ足ラサルナリ

### 第三目 定期確定公債

#### 甲 定期一時支拂公債

定期一時支拂公債トハ一定ノ期限ニ於テ一時ニ全額ノ支拂ヲ約スル公債ニシ  
 テ其期限内ニ於テハ財政甚タ緩裕ニシテ償還ヲ爲スヲ便ト爲スモ此カ償還ヲ  
 遂行スルコトヲ得ヌ又利子ノ歩合ノ變動ニ因リ公債ノ借換ヲ爲スヲ便ト爲ス  
 モ此カ借換ヲ遂行スルコトヲ得ヌ而シテ一方ニハ其期限ニ際シテハ財政ノ緩  
 急ニ拘ラス一時ニ其全額ノ償還ヲ期セスシハ非ス隨テ此種ノ公債ハ其額巨額

ニ上ルトキハ絶対ニ採用スヘカラサルモノニシテ若シ財政上ノ方面ヨリ觀テ  
 幸ニ容易ニ之カ償還ヲ爲スコトヲ得ヘキモ一時ニ巨額ノ流動資本ヲ投下スル  
 モノナルヲ以テ物價ノ暴騰ヲ來シ輸入超過ト爲リ貨幣ノ購買力ノ減少ハ事業  
 ノ濫興ト爲リ投機心ヲ挑發シ經濟上ノ害毒ヲ流スニ至ルコト又尠シト爲サナ  
 ルナリ故ニ此種ノ公債ハ便宜少額ノ募集ニ際シ稀ニ用フヘキ手段ニシテ一般  
 ニ此方法ヲ執ラサルヲ原則ト爲スモノナリ

#### 乙 定期定期支拂公債

定期定期支拂公債トハ一定ノ期間内ニ償還年限及ヒ一定ノ一部償還額ヲ定メ  
 テ支拂ノ公債ニシテ一時ニ全額ヲ支拂フノ危險及ヒ不利ヲ年限ノ分配ニ依リ  
 テ避クルノ法ナリ故ニ通常其全額ノ一部ヲ豫算ニ組入ルコトヲ得ヘク國庫ハ  
 一定ノ公債元利支拂資金ヲ支出シテ漸次償還ノ法ニ依リテ此カ完済ヲ期スル  
 モノナリ故ニ其償還年度ヲ經ル毎ニ其前同ニ償還セシ元金ニ對スル利子ハ之  
 ヲ元金ノ償還高ニ加算スルヲ以テ政府ハ同額ノ支出ニ由リ漸次償却高ヲ增加  
 スルコトヲ得ルモノナリ

此公債ノ利益ハ收入金ノ使用法ヲ明カニシテ一ノ特別會計ヲ設クルニ在リ即チ濟薦法ニ依リ精確ナル豫算ヲ設クルコトヲ得ルニ在リ隨テ國家カ平和無事ニシテ毎年巨額ノ歲入剩餘ヲ有シ償還ヲ豫期シ得ヘキトキハ其弊害ヲ見ルコト尠シト雖モ此ノ如キハ稀有ノ例ニ屬スルモノニシテ僅ニ一千八百三年十一月三日ルイジニヤ頻買上ノ爲メ四箇年ノ年賦償還ヲ以テ起債セル北米合衆國ノ例ヲ見ルニ過キス蓋シ此場合ニハ募集額ハ其國ノ財政上少額ニ止マリ隨テ此カ支拂期限モ短期ヲ以テ足レリト爲セシモ一般ニ四五十年ヲ以テ償還期間ト爲スヲ以テ其間政府カ終始無事平穩ニシテ財政ノ餘裕ヲ期センコトハ不能ニ屬スヘキノミナラス所謂政府カ財政ノ緩急ニ應シテ之カ償却又ハ借換ヲ爲スノ便ヲ缺キ獨逸各州ニハ猶ホ此種ノ公債ノ爲メ市場ノ金利歩合三分四分ノ間ヲ昇降スルニ拘ラス五分利附ノ文拂ヲ繼續セルモノアリ又ハ期限ノ到來ニ因リテ定額支拂ノ義務ヲ負ヒ爲メニ新ニ高利ノ公債ヲ起スカ如キ弊害少シト爲サス殊ニ土耳其埃及等ノ如キ財政ノ信用薄弱ナル國ニ在リテハ債權者ハ自己ノ債權ヲ確保スルカ爲メ公債ヲ發行スルニ當リ其契約中毎年年利子ノ外更ニ

若干ノ金額ヲ支出シ之ヲ以テ償還基金ヲ積立ツヘシト定ムルコトアリ故ニ此種ノ公債ニシテ商法ニ於テ所謂建築利子ヲ認ムルカ如キ事業即チ其收益ノ期限ニ達スルニ數年ヲ要スヘキ事業ニ投シ又ハ消費公債ニ屬スヘキモノニ在リテハ國庫カ尙ホ資本借入必要ヲ感スルニ際シ負債ノ償還ヲ期スヘキモノニシテ公債ノ發行ト公債ノ償還ヲ同時ニ混合セル變體ト謂フヘク「アダム」氏ノ如キハ評シテ一種ノ贅澤ナル遊戲ナリト爲セリ

之ヲ要スルニ此種ノ公債ハ一方ニハ國家平和無事ニシテ財政ノ餘裕アルニ際シ少額ニ限り短期ニ償還ヲ期スヘキトキハ強テ之ヲ非難スヘカラサルモ此等ノ場合ニハ他ニ救済ノ方法尠カラサルヲ以テ定期一時支拂公債ニ比スレハ尙ホ一段ノ進歩ヲ見ルモ財政上政府ノ信用ノ薄弱ナルコトヲ證スル不利ノ公債ト認メスハ非サルナリ

## 丙 定期隨時支拂公債

定期隨時支拂公債トハ一定ノ償還期限ヲ定メ其期限内ニ於テ政府カ隨時ニ支拂フ公債ニシテ定期定額支拂法ニ比シテ又一段ノ進歩ヲ爲セシモノナリ即チ

定期一時支拂法ニシテ其期限到達前償還借換ノ自由ヲ有スルモノト見ルコトヲ得ヘシ此公債ハ北米合衆國ニ於テ大藏長官チエース氏ノ始メテ用ヒシモノニ係リ合衆國ニ於テ盛行ハルルニ由リ又之ヲ米國法ト稱ス我邦ニ於ケル公債モ亦此制ヲ取ルモノニシテ其ニ公債ノ發行ニ際シ一定ノ據置期限ヲ定メ五十年ヲ以テ通例ノ償還期限ト爲セリ

此公債ノ利害ハ一ニ當局財政家カ其期限内ニ於ケル措置ノ如何ニ存スルモノニシテ若シ立法部行政部共ニ唯其年ノ經費ノ減少ヲ目的トシ隨時ノ支拂タルニ安シテ平素之カ償還ニ勉メサルトキハ滿期ノ際ニ受クヘキ弊害ハ正ニ定期一時支拂公債ト全ク其轍ヲ同シクスヘキモノナリ故ニ政府此カ滿期ニ際シテ平素之カ償還ヲ怠リ殊ニ戰事其他ノ事變起ルトキハ臨時費支給爲メ公債募集ノ必要アル外更ニ舊公債ノ借換又ハ償還ノ爲メ又此カ新公債募集ノ窮況ニ陥ルコトナシトセスアダム氏ノ如キハ此點ヨリ永遠公債ノ利ヲ主張シテ又別ニ此公債制度ニ有害無益ニシテ臣民ニ又寸毫ノ保障ヲ與フルモノニ非サルコトヲ論セリ固ヨリ唯リ定期臨時支拂公債ニ限ラルヘキモノニ非サルノミナラ

ス全然同意ヲ表シ難キ點アルモ參照ノ爲メ其大要ヲ掲載スヘシ

定期臨時支拂ノ公債ハ果シテ如何ナル特別ノ利益ヲ有スルカ公債ノ所有者ヲシテ之カ償還請求ノ期限ヲ定ムルモ又以テ永久ニ公債ヲ存續セシメサルコトヲ保證スルニ足ラス如何トナレハ一ノ内閣ハ公債償還ノ主義ヲ實行スルモ將來ノ内閣ヲシテ此方針ヲ遂行セシメ能ハサルノミナラス將來ノ内閣ハ隨時法律ヲ以テ此カ償還期限ノ變更ヲ爲スニ容易ナルヘシ殊ニ一ノ公債ヲ償還スル爲メ更ニ新公債ヲ發行スルコトヲ得レハ公債其モノノ消滅ニ對シテハ何等ノ效果ヲ生スルナク寧ロ當初ヨリ永遠ノ公債ト爲スノ勝レルニ如カサルナリ人或ハ此種ノ法律ノ存在ハ少クトモ公債ノ永續ヲ德義上豫防スルノ效果アルヘシト論スル者アラン然レトモ普通ノ商業ニ於テ長期ノ契約ヲ爲シ又ハ新負擔ヲ起シテ舊負擔ヲ償却スルコトカ廣ク行ハルル慣例タルコトヲ知ラハ以上ノ立論モ亦一片ノ空想タルコトヲ免レサルヘシ

然レトモ此法ハ據置期限經過ノ後ハ財政ノ緩急ニ應シ隨時之カ償還又ハ借換ヲ行ヒ又財政ノ窮況ニ際會スレハ強テ之ヲ償還スルノ要ナク一方ニハ永遠公

債ノ場合ノ如ク償還ヲ永遠ニ期スルモノニ非ナルヲ以テ自然此カ償還ニ勉メ累テ後世ニ貽スノ弊害ヲ輕減スルノ利アリ故ニ財政上ノ措置宜キヲ得ハ有益無害ノ制度ニシテ殊ニ北米合衆國又ハ我邦ノ如キ新開ノ國ニシテ沿革上未タ永遠公債ノ發達セザル所ニ於テハ最モ適當ナル公債ト謂フヘキナリ

### 第三項 無期確定公債

無期確定公債又ハ永遠公債トハ利子ノ支拂ノミヲ約シ元金ノ償還ニ付テハ期限ヲ定ムルコトナク政府ハ隨時ニ之カ償還ヲ爲シ得ル公債ニシテ現時英佛伊獨等歐洲各國ノ公債ノ大部分ヲ占ムルモノナリ  
無期公債ハ債權者ヨリ元金償還ノ請求ヲ受クルコトナク唯之カ利子ヲ支拂フノ責ニ任スルニ過キス即チ臨時費ハ許多ノ小支拂金ニ分割セラレ經常費トシテ認ムルモ敢テ差支ナキニ至ルヲ以テ其負擔ハ勢ヒ緩和ニシテ一方ニハ財政上ノ緩急ニ應ジ臨時市場ノ買上又ハ元金ノ支拂ニ由リ便宜所要ノ額ヲ償還スルコトヲ得ルモノトス

此說ノ要旨ニ曰ク外國人カ内國ニ來リテ法律行爲ヲ爲スヤ必ス内國ノ法律ニ服從セサルヘカラス隨テ内國ノ法律カ定メタル方式ハ外國人ノ遵守スヘキコト固ヨリ其所ナリトス云ト此說ハ未ダ右ノ原則ヲ説明スルニ足ラサルモノトス何トナレハ外國人カ内國ニ來リテ内國ノ法律ニ服從スヘキハ原則ナレトモ内國ノ法律ハ任意ニ其管轄權ヲ拋棄スルヲ得ルコト亦明白ナリトス蓋シ内國ノ法律ハ絕對的ニ外國人ヲ羈束スル必要ヲ有セザレハナリ故ニ内國法ノ定メタル法律カ外國人ヲ羈束スルヤ否ヤハ先テ内國法ノ精神ニ照シテ之ヲ斷定セサルヘカラス決シテ主權說ヲ唱フル者ノ如ク法律一般ノ性質ヨリ結論スルコトヲ得サルモノトス假ニ法律一般ノ性質ヨリ結論シテ内國ノ法律ハ絕對的ニ外國人ヲ羈束スト謂フコトヲ得ルトスルモ未タ以テ右ノ原則ヲ説明スルモ足ラサルナリ何トナレハ甲國ニ於テ定メタル方式ヲ乙國ノ臣民カ遵守シタル場合ニ何カ故ニ乙國ニ於テ之ヲ認ムヘキ必要アリヤノ問題ハ即チ予輩カ其解釋ヲ知ラント欲スル所ナレハナリ要スルニ内國ノ法律ノ定メタル方式カ外國人ヲモ羈束スト云テ前提ハ外國人ニ他國法ノ方式ヲ守ルコトヲ禁スルノ結論



ヲ生スルニ過キサルモノトス

### 第三 自然說

涉外的法律行為ハ數國ノ法律ニ關係アルモノニシテ即チ當事者ノ本國法廷所  
地法等ハ何レモ此法律行為ニ關係ヲ有スルモノナレトモ就中最モ密著ノ關係  
ヲ有スルモノハ法律行為ヲ爲シタル地即チ法律行為ノ成立地ナリトス抑モ方  
式ハ法律行為ノ證明ヲ目的トスルモノナルカ故ニ右數多ノ法律中最モ證明ノ  
方ヲ備フル法律行為ヲ爲シタル地ノ法律ニ依ルヘキモノトス是レ右ノ原則ヲ  
生シタル所以ナリトス云云ト然レトモ法律行為ノ實行地即チ最後ノ履行地ノ  
如キ法律行為ノ成立地ト同シク法律行為自體ニ密著ノ關係ヲ有スルモノニ  
テ當事者ノ主眼トスル所ハ寧ロ債務履行地ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ債權  
成立ノ目的ハ債務ノ履行ニ外ナラサレハナリ左レハ債務履行地ノ法律カ定  
タル方式ニ適合スル法律行為ニ非サレハ之ヲ有效トセサル國勢カラス

### 第四 任意服從說

此說ヲ唱フル者ハ以爲ラテ當事者カ法律行為ヲ爲スニ方リテハ其行為ヲ爲ス

地ノ法律ニ任意ニ服從セタルモノナリ而シテ當事者ノ意思ノ自由ヲ重ンスヘ  
キハ私法上ノ原理ナルカ故ニ當事者ノ任意ニ服從シタル地ノ法律カ定メタル  
方式ニ適合スル法律行為ハ右行為地以外ニ於テモ之ヲ認メサルヘカラス云云  
ト當事者ノ意思ノ自由ヲ尊重スヘキハ勿論ナレトモ之ヲ無限ニ解釋スヘカラ  
サルコト固ヨリ明白ニシテ少クモ法律行為ノ方式ニ付キ此原理ヲ應用スル  
コト能ハサルモノトス何トナレハ方式ノ場合ニモ果シテ當事者ノ意思ノ自由  
ヲ重ンスヘキモノトセハ內國ニ於ケル內國ノ臣民ハ內國法カ定メタル方式ヲ  
守ラスシテ隨意ニ外國法ノ定メタル方式ヲ守ルモ尙ホ有效ナリトセサルヘカ  
ラス例ヘハ贈與ノ如キ書面契約ト爲ス例頗ル多シ然ルニ反對說ニ依レハ內國  
ニ於テ贈與ヲ爲ス場合ニ書面ニ依ラサルモ猶ホ之ヲ取消シ得ヘカラスルモノ  
ト認メサルヘカラス左レハ此說ハ從來勢力ヲ有シタルニ拘ラス今日ニ於テハ  
漸漸衰頹スル傾アリ

### 第四說 便宜說

便宜說ヲ唱フル者ハ曰ク內國ハ外國ニ於テ法律行為ヲ爲スニ方リ本國法ノ

規定シタル方式ヲ履行セントスルモ爲シ得ヘカラサルコト往往之アルモノナリ例ヘハ本國ノ規定ニ依レハ一定ノ契約ハ必ス公証證書ヲ製スヘキ場合ニ契約ヲ爲ス國ニ於テ公証證書ヲ作ルヘキ機關ノ存セザルトキハ畢竟外國ニ於テ一定ノ契約ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヘシ此事タルヤ內國臣民ノ爲メニ頗ル不利益ナルモノナルカ故ニ契約ヲ爲シタル地ノ方式ニ適シタル以上ハ本國ニ於テモ之ヲ認メサルヘカラス又第三國ト雖モ當事者ノ便宜ヲ重シシ之ヲ有效ノモノト認メサルヘカラストノ一般ノ思想ヨリ遂ニ此ノ如キ原則ヲ生シタルモノナリ云ト此說ハ現今ノ國際私法學者中多ク之ヲ唱フル所ニシテ我法例ノ此原則ヲ認メタルモ亦此理由ニ外ナラサルヘシ

我法例第八條ニ曰ク法律行為ノ方式ハ其行為ノ效力ヲ定ムル法律ニ依リ行為ノ地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ニ付テハ此限ニ在ラスト

我法例ハ物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ノ方式ト其以外ノ法律行為ノ方式トヲ全ク區別シ後者ニ付テハ法律行為ノ實體ニ關スル

● 法律ト行為地法トノ二ヲ準據法ト定メタリシカ前者ニ付テハ法律行為ノ實體ニ關スル法律ヲ準據法ト定メタリ而シテ物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ノ實體ニ關スル法律トハ果シテ如何ナルモノナルヤ此問題ニ付テハ我國ニ於テモ頗ル議論アルモノノ如シ然レトモ本章ハ單ニ方式ノ問題ヲ説明スルニ過キサラテ以テ詳細ノコトハ本論ニ於テ説明スヘシト雖モ唯茲ニ一言スヘキハ物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ノ準據法ハ物ノ所在地ナルコト是ナリ隨テ此法律行為ノ方式ハ物權其他登記スヘキ權利ノ目的物ノ存在スル地ノ法律ヲ適用スヘキモノトス之ニ反シテ此以外ノ法律行為ノ方式ハ當事者カ隨意ニ選定シタル地ノ法律ナルコトアリ又ハ法律行為ヲ爲シタル地ノ法律ナルコトアリ

舊法例第十條ハ等シク此原則ヲ採用シタルモノナリ曰ク要式ノ合意又ハ行為ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フトキハ方式上有效トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限ニ在ラスト今新舊二法例ヲ比較スルニ新法例ハ原則トシテ法律行為ノ實質問題ト方式問題トヲ同一ノ法律ニ依ラシメタル點ニ於テ

顯ル首察ニ中リタルモノト謂フヘシ唯茲ニ聊カ疑フヘキコトハ物權其他登記  
 スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ハ法律行為中最モ多キヲ占ムルモ  
 ノナリ隨テ我法例第八條ニ依リ行為地法ノ方式ニ依ル法律行為ハ其例頗ル僅  
 少ナルヘキカ故ニ第八條ノ規定ハ實際多クノ利益ヲ生スルコト能ハサルコト  
 是ナリ

方式トハ何ソヤナルランハ嘗テ四種ノ方式ニ區別セリ曰ク執行的方式曰ク内  
 部ノ方式曰ク外部ノ方式曰ク能力付與ノ方式是ナリ執行的方式トハ確定判決  
 ニ執行文ヲ付スル手續ヲ指稱シ内部ノ方式トハ契約ノ要素ヲ謂ヒ外部ノ方式  
 トハ當事者ノ意思ヲ確實ニ表示スル方法又ハ當事者ノ意思表示ヲ證明スル方  
 法ヲ謂ヒ而シテ能力付與ノ方式トハ無能力ヲ補充スルカ爲メニ與フル父母後  
 見人等ノ承諾ヲ謂フ右ノ内法律行為ノ方式ト稱スルモノハ所謂外部ノ方式ニ  
 シテ往往明文ヲ以テ此事ヲ明言スル例アリ例ヘハ伊太利民法白耳義民法草案  
 「チユリヒ民法」ツグ民法等是ナリ

次ニ本原則ノ適用セララルル範圍如何從來ノ例ヲ見ルニ本原則ノ適用セラレタ

ルハ裁判所ニ於テ調製スル公正證書ノミナリシカ其後一般ノ公正證書ニ及ホ  
 シ近來ニ於テハ終ニ私書證書ニ適用セララルルニ至レリ蓋シ外國ニ於テ本國法  
 ノ定メタル方式ニ從ヒ公正證書ヲ作ルコト能ハサルハ勿論ナルカ故ニ公正證  
 書ニ本原則ノ適用セララルコトハ別ニ問題ト爲ラスト雖モ私書證書ニ付テハ  
 往往學理上ヨリ本原則ノ適用ヲ疑フ者アリ然レトモ歐米諸國ニ於テハ私書證  
 書ハ概テ法律家ノ手ニ成ルカ故ニ此原則ノ適用セララルルハ少クトモ歐米ニ於  
 テハ問題トスル價値ナキモノトス舊法例ノ解釋者ハ概テ私書證書ニモ右原則  
 ノ適用スルコトヲ認メリ而シテ將來我國ニ於テ私書證書ハ法律家ノ手ニ成ル  
 時アルヲ思ハハ本原則ハ第八條ノ解釋トシテ私書證書ニモ適用セララルルノ日  
 アルヤ明カナリ

茲ニ一問題アリ即チ本國法ノ定メタル方式ヲ免レンカ爲メニ故ラニ外國ニ赴  
 キ外國法ノ定メタル方式ヲ履行シタル場合はナリ我舊法例第十條ニハ故意ヲ  
 以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限ニ在ラスト規定シ其無効ナルコトヲ規定  
 セリ今新法例ニ關スル學說ハ舊法例ノ如ク無効說ヲ採ル者アリ又有效說ヲ採

ルモノアリ無効説ノ理由トスル所ハ本國法カ當事者ノ便宜ヲ重シ外國法ノ定メタル方式ヲ履ムコトヲ認メタル以上ハ當事者ニ對シ本國法ノ定メタル方式ヲ守ルニ及ハスト規定セルモノナリ然ラハ當事者カ本國法ノ定メタル方式ヲ履キ外國法ノ方式ヲ履ミタル場合ニ其法律行為ヲ無効トスル理由ナカルヘシ殊ニ惡意ヲ證明セントスルモ到底爲シ得ヘキコトニ非ス云云ト然レトモ惡意ヲ保護セサルハ法律ノ大原則ニシテ外國ノ方式ヲ履ムコトヲ許スハ當事者ノ善意ヲ要件ト爲シタルコト明カナリ而シテ惡意ヲ證明スルコトハ實際困難ナリト雖モ全ク不能ノ事ニ非ス例ヘハ當事者カ自白シタル場合ノ如キ是ナリ新法例ニ於テ舊法例但書ノ如キ規定ヲ設ケサルハ當然ノ規定ナルカ爲メナラシカ

法律行為ノ目的物カ不動産トシテ場合ニ於テ其法律行為ノ方式ノ準據法ハ英米主義ト大陸主義トニ依リ其結果ヲ異ニス英米主義ニ依レハ不動産ヲ目的トスル法律行為ノ成立及ヒ效力ノ問題ハ勿論其方式ノ問題マテモ總テ不動産所在地ノ法律ニ依ルモノトス例ヘハ英國ニ存在スル不動産ヲ買賣スル場合ニ英國

ニ於テ右ノ買賣ヲ書面契約ナリトスルトキハ縱令英國以外ニ於テ契約ヲ爲シタル場合ト雖モ必ス英國法ノ定メタル方式ヲ履マサルヘカラス若シ英國ニ於テ物權移轉ノ方式ヲ定メタルトキハ亦英國ノ方式ヲ履マサルヘカラス蓋シ英米ニ於テ此ノ如キ主義ヲ採用シタル所以ハ不動産殊ニ土地ハ國土ノ一部分ナルカ故ニ之ニ關スル法律行為ヲ外國法ニ依ラシムルトキハ英米ノ利益ヲ侵害スト云フニ在リ之ニ反シテ歐洲大陸ニ於テハ普通西普通法典ニ於テ僅ニ英米主義ヲ採用シタルノミニシテ其他ノ國ニ於テハ一般ニ法律行為ノ問題ト物權自體ノ問題トヲ全ク區別セリ隨テ物權移轉ノ原因タル法律行為ノ方式ハ行爲地法ニ依ルモ有效ニシテ唯物權移轉ノ方式ノミハ不動産所在地法ニ依ルヘキモノナリ例ヘハ獨逸ニ存在スル土地ヲ佛國ニ於テ買賣スル場合ニ佛國法ハ之ヲ無式契約ト爲スカ故ニ何等ノ方式ヲ履ムニ及ハス是レ法律行為ノ方式問題ナレハナリ然ルニ獨逸ニ於テハ土地ノ所有權ヲ移轉スルカ爲メニハ登記ヲ要ス是レ物權移轉ノ方式ナルカ故ニ不動産所在地法タル獨逸法ニ依リ登記ヲ爲ササルヘカラス然ルニ我法例ハ前ニ一言スル如ク英米主義ヲ採用シタルモノ

トス  
 本國ニ於テ内國ノ臣民ニ對シ絶對ニ本國法ノ方式ヲ守ルヘキコトヲ命シタル場合ニ外國ニ於テ右ノ方式ヲ履マサルトキハ其法律行為ヲ無効ナルヤ否ヤ例ヘハ本國ニ於テ贈與ハ書面契約殊ニ公正證書ヲ作ルヘキコトヲ命シタル場合ニ外國ニ於テ公正證書ヲ作ルヘキ機關ナキカ爲メニ單ニ私書證書ヲ作リテ贈與ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ第一說ニ依レハ本國ノ法律カ外國ニ於テ其臣民ヲ驅東スヘキハ原則ナルカ故ニ本國ハ勿論第三國ニ於テモ此法律行為ヲ無効ト爲ササルヘカラス之ニ反シテ第二說ニ依レハ身分ニ關スル法律行為ノ場合ニ於テハ無論本國ノ法律ニ從フヘキモノナレトモ財產ニ關スル法律行為ニ付テハ之ヲ有效ト爲ササルヘカラス蓋シ本國ノ法律ハ人ニ附隨スルモノニ非サレハナリ更ニ第三說ニ依レハ右法律行為カ本國ニ於テ問題ト爲リタルトキハ無効ナレトモ第三國ニ於テ問題ト爲リタルトキハ之ヲ有效ト認メサルヘカラスト  
 尙ホ法律行為ノ方式ニ關スル原則上我法例第八條ノ所謂法律行為ノ範圍ヲ確

定スル必要アリ前ニ一言セシ如ク歐洲諸國ノ立法並ニ學說ハ財產ニ關スル法律行為ノミナラス親族法若クハ相續法ノ範圍ニ屬スル法律行為ノ方式ヲモ總テ前示ノ原則ニ依リテ管轄セシメタリ然ルニ我法例第八條所謂法律行為ナル文字ハ第七條所謂法律行為ナル文字ト全ク同一ナルヤノ感アリ何トナレハ第七條法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム當事者ノ意思カ分明ナラザルトキハ行為地法ニ依ルニ所謂法律行為ハ親族法又ハ相續法ニ依ル法律行為ヲ包含セザルコトハ當事者ノ意思ヲ標準トシテ其準據法ヲ定ムルヲ見テモ之ヲ知り得ヘキノミナラス親族法又ハ相續法ニ依ル法律行為ノ規定ニ付テハ法例中各之ヲ設ケタルニ依リ之ヲ知ルコトヲ得此ノ如ク第七條所謂法律行為ハ單ニ財產ニ關スル法律行為ノミヲ規定シタルモノニシテ而シテ第八條ハ其後ヲ承ケテ直チニ規定ヲ設ケタルヲ以テ往往我國ニ於テハ親族法及ヒ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行為ノ方式ハ第八條ノ規定ニ屬セスト解スル者アリ予輩ハ彼項ノ順序ヨリ言ヘハ第八條ヲ第七條ノ後ニ置キタルハ頗ル失當ナルモノナリト信ス何トナレハ第九條ニ

於テ定メタル法律行為ノ問題モ親族法及ヒ相續法ノ範圍外ニ立ツモノナレハナリ然レトモ新法例中一般ノ方式ヲ定メタル規定ナキヲ觀レハ條項ノ配列上ノ觀察ハ姑ク措キ第八條ハ一般ノ法律行為ノ方式ヲ定メタルモノナリト解釋スルヲ穩當ナリト信ス

法律行為ノ方式ニ關スル原則ハ要式行為ノ方式ヲモ包含スルヤハ一ノ問題ナレトモ今日多數ノ學說並ニ實例ハ要式行為ノ方式ヲモ包含スト認メタリ我舊法例ノ如キハ要式ノ合意ナル文字ヲ以テ此趣意ヲ明言セリ新法例ノ趣旨亦之ニ外ナラス而シテ我國ノ學說ハ一般ニ右ノ趣意ヲ認メサルハナシ然レトモ要式行為ノ方式ハ法律行為ノ成立ニ關スル要件ニシテ之ヲ廢ムト否トニ依リ法律行為ノ運命ヲ左右スルモノナリ故ニ理論上ヨリ言ヘハ本章ノ原則ニ包含セラルルモノハ單ニ法律行為ヲ證明スル方式ノミナリト謂ハサルヘカラス而シテ如何ナル方式カ法律行為ノ證明ナルヤハ其方式カ法律行為ノ成立ニ關スルト否トニ依リテ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ例ヘハ吾人カ契約ヲ爲ヘタル場合ニ公正證書若クハ私書證書ヲ作成シテ之ヲ證明スルト否トハ吾人ノ自由ニ屬

スル所ニシテ法律上之ヲ必要ト爲スモノニ非ヌ隨テ此種ノ方式ハ本章ノ原則ニ據リテ管轄セラルヘキヲ正當ナリト信ス

本原則ハ隨意法ナリヤ將タ強制法ナリヤ今日多數ノ學說ハ之ヲ隨意法ナリト曰ヘリ蓋シ本原則ノ理由ヲ説明スル學者ノ多數カ前ニ示シタル便宜說ヲ採リタル結果ナリトス即チ行為地ノ方式ヲ屢マサルモ本國法ノ定メタル方式ヲ屢ミタル場合ニ於テハ方式上其法律行為ハ有效ナリトスルモノナリ而シテ之ヲ強制法ナリト斷定スル學者ハ多クハ主權說ヲ論據トセリ然レトモ主權說ノ誤謬ナルコトハ前ニ一言セシカ故ニ其結論ノ不當ナルコトハ再言スルヲ要セス此原則ヲ隨意法ナリト斷定スル學者ノ多數ハ本國法及ヒ行為地法ノ二ヲ以テ法律行為ノ方式ニ關スル準據法ト爲スモノ多シ然レトモ尙ホ法律行為ノ成立及ヒ效力ヲ定ムル法律ヲモ併セテ準據法ト爲スコト我法例ノ如キ例動シトセス或ハ法律行為ノ效力ヲ生スル地ノ法律ヲモ併セテ準據法ト認ムル學說モ亦之アリ而シテ實例モ亦此等ノ學說ノ如ク區區ニ歧レタリ我法例第八條ハ法律行為ノ成立及ヒ效力ヲ定ムル法律ト行為地法トノ二ヲ以テ準據法ト爲セシコ

トハ既ニ説明セシ所ナレトモ内國人間ニ於テ法律行為ヲ爲シタル場合ニ内國法ノ方式ヲ履ミタルトキハ尙ホ之ヲ有效ト爲スヘキヤ否ヤ此事ハ法律行為ノ成立及ヒ效力ニ關スル準據法ハ我法例上内國ノ法律ヲモ包含スルヤ否ヤニ依リテ決セラレルモノトス隨テ此事ハ後ニ法律行為ノ實質問題ヲ説明スル場合ニ讓ルヘシ然ルニ伊太利ニ於テハ嘗テ同國民法編纂ノ際此問題ニ付キ委員會ニ議論ヲ生シタリシカ確定法文ハ草案ノ規定ニ反シ内國人間ニ於ケル法律行為ニ付テハ本國法ノ定メタル方式ニ依ルモ有效ナリト定メタリ隨テ同法ニ於テハ國籍ヲ異ニスル當事者ハ必ス行為地ノ方式ヲ履ムヘキモノト謂フヘシ然ルニ學者間ニ於テハ當事者カ同籍ヲ異ニスル場合ニ當事者ノ各本國法ノ定メタル方式ヲ履ミタルトキハ其法律行為ハ方式上有效ナリト解釋スル者アリ或ハ當事者雙方ノ本國法カ定メタル方式ヲ履ミタルトキニ於テ有效ナリト解釋スル者アリ例ヘハ二人ノ當事者アリテ一人ハ伊太利人ニシテ他ノ一人ハ佛蘭西人ナリシ場合ニ其法律行為ヲ獨逸ニ於テ爲シタルニ方リ當事者カ何レモ伊太利法ノ方式ト佛蘭西法ノ方式トヲ併セテ履ミタルトキハ縱令行為

地タル獨逸ノ定メタル方式ニ依ラサルモ有效ナリト解釋スル者アリ  
財政ノ爲メニ訴訟上一定ノ手續ヲ必要ト爲ス場合ハ各國ニ於テ其例乏シカラス例ヘハ證書ニ印紙ヲ貼用スル手續ノ如キ是ナリ此場合モ法律行為ノ原則ニ依リテ管轄セラレヘキヤ否ヤ學者間ニ議論アル所ナレトモ予輩ハ一般ノ學者カ此問題ヲ抽象的ニ説明シ得ヘキモノト信スルヲ疑フ者ナリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ此問題ハ印紙貼用ノ手續ハ果シテ法律行為ノ方式ト認ムヘキヤ否ヤノ先決問題ニ係ルモノト信ス而シテ此先決問題ハ抽象的ニ解釋スルコトヲ得ス何トナレハ印紙ノ貼用ヲ命スル各國法律ノ規定ハ同一ナラザレハナリ或ハ之ヲ以テ法律行為ノ證明ニ缺クヘカラザルモノト爲ス國アリ或ハ之ヲ以テ全ク租稅徵收ノ方法ニ過キス隨テ印紙ヲ貼用セザルトキハ其罰ヲ受クルニ止マリ法律行為ノ證明ヲ妨グサル例アリ茲ニ於テカ證書ヲ作成スルニ方リ作成地ノ法律カ第一種ノ國ニ屬スルトキハ法律行為ニ關スル原則ニ依リテ管轄セラレヘカ之ニ反シテ第二種ノ國ニ屬スルトキハ此原則ノ範圍ニ屬セザルモノト知ルヘシ

法律行為ノ方式ニ付キ往往條約ヲ締結スル例アリ殊ニ外國ニ於テ内國人カ婚  
姻ヲ爲ス場合ニ公使又ハ領事カ戸籍吏ノ代理ヲ爲スヘキ場合ニ多ク見ル所ノ  
例ナリトス而シテ今日多數ノ國ハ法律ヲ以テ此事ヲ規定セリ例ヘハ日本獨逸  
英吉利佛蘭西伊太利北亞米利加匈牙利白耳義等即チ是ナリ然ルニ此種ノ條約  
ニ付キ二箇ノ見解ヲ生シタリ第一說ニ依レハ此種ノ條約ハ之ヲ締結スル必要  
ヲ見スト云フニ在リ蓋シ内國ノ臣民ニ對シ國家カ方式ニ關スル機關ヲ定ムル  
ハ隨意ニシテ外國ノ承諾ヲ要セサルカ故ナリト第二說ニ依レハ公使又ハ領事  
ハ外國ニ在ルモ猶ホ自國ニ在ルカ如シ隨テ條約ヲ締結スル必要アル所以ナリ  
ト然レトモ第二說ハ全ク價值ナキモノニシテ若シ此說ノ前提ニシテ果シテ誤  
リナキニ於テハ却テ條約ヲ締結スル必要ナカルヘシ何トナレハ公使又ハ領事  
カ内國ニ於テ國家行為ヲ爲ス場合ニ外國ノ承諾ヲ必要トスヘキ理ナケレハナ  
リ此ノ如ク第二說ハ誤譯ノ見解ナレトモ其條約ヲ締結スル必要アリト爲スノ  
點ニ於テハ予ノ贊成スル所ナリ何トナレハ公使カ外國ニ駐在スルハ内國ニ住  
スルト全ク同一ナリトノ見解ハ今日ノ國際法ニ適合セザル陳腐ノ說ニシテ公

使カ戸籍吏ノ職務ヲ爲スハ主權ヲ行用スルモノナルカ故ニ其行用地タル外國  
ノ承諾ヲ經ルコトヲ要スルモノナリ殊ニ領事ハ從來ノ學說ニ徵スルモ公使ト  
同一ニ認ムヘカラサルモノナルニ於テヲヤ

## 第二編 各論

### 第一章 人

#### 第一節 權利能力

##### 第一款 自然人ノ權利能力

權利能力ハ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得ルノ義ニシテ獨逸學者ノ好シテ用  
フル所ノ文字ナリ而シテ權利能力ハ出生ニ因リテ開始スルコトハ近世學說故  
ニ實例ニ於テ等シク認ムル所ニシテ我民法及ヒ獨逸民法ノ如キハ何レモ此事  
ヲ明定セリ而シテ母體ヲ離レタル時ヲ以テ出生ト視ルヘシトハ是レ亦一般ニ  
認ムラレタル所ナレトモ往往開眼又ハ發聲ヲ以テ出生ノ徵候ト定ムル例アリ



例へハ普通西普通法典、埃太利民法ノ如キ是ナリ又生レタル兒ノ人形ヲ具フルコトヲ要スト定ムル例アリ例へハ佛蘭西民法ノ如キ是ナリ獨逸民法草案理由書ニ「パウムバハ」氏等ノ説ヲ掲ケテ現今ノ醫學上人體ヨリ生レタル者ハ必ス人ナルコトヲ證明セリ然レトモ佛蘭西民法等ノ如キ規定アル以上ハ畸形兒ヲ以テ人ト看做スヘキヤ否ヤノ問題ヲ生スヘシ凡ソ此等ノ場合ニ於テ生地ノ法律ニ依リテ此問題ヲ決スヘキヤ或ハ外國ノ法律ニ依リテ此問題ヲ決スヘキヤノ疑ヲ生スヘシ

右ノ外社會上ノ身分ニ依リテ權利能力ノ範圍ヲ異ニスル國アリ獨逸ノ如キハ從來貴族ヲシテ廣大ナル特權ヲ享有セシメタリシカ新民法施行法ニ於テ大ニ其範圍ヲ縮少セリ然レトモ尙ホ箇箇ノ場合ニ於テ多クノ特權ヲ付與セリ露西亞ノ制度亦然リ今此等ノ國ノ貴族カ我國ニ於テ本國法ノ認メタル特權ヲ享有スルコトヲ得ルヤ否ヤ是レ亦涉外的問題タルヘシ此問題ニ付キ或ハ外國ノ貴族ニ付テノ系統ニ出ツルト將タ政府ノ恩命ニ出ツルトヲ問ハス之ヲ認メスト曰フ者アリ或ハ系統上ノ貴族ハ之ヲ認ムルモ恩命ニ出ツルト貴族ハ之ヲ認メス

ト曰フ者アリ然レトモ多數ノ學說ニ依レハ外國人ヲ貴族ト爲シタル場合ヲ除ク外其恩命ニ出ツルト將タ系統ニ出ツルトヲ問ハス總テ之ヲ認ムヘキモノナリトセリ又胎兒ハ一定ノ場合ニ於テノミ其人格ヲ認ムル例アリ或ハ其利益ト爲ル場合ニ於テハ其人格ヲ認ムル例アリ今後者ニ屬スル國ノ人民カ我國ノ如ク一定ノ場合ニノミ人格ヲ認ムル國ニ於テ懷胎シタルトキハ何レノ國法ニ依リテ其人格ヲ認ムヘキヤノ問題ヲ生ス其他舊教ヲ奉スル諸國ニ於テ往往一定ノ宗教組合ニ屬スル僧侶ノ相續權ヲ認メサル例アリ是レ亦涉外的問題ノ原因ト爲ルヘシ其他奴隸ニ付テモ亦同シ

此ノ如ク權利能力ハ涉外的問題ノ原因ト爲ルカ故ニ此問題ヲ解釋スル學說尠カラス第一ハ當事者ノ住所法ニ依リテ此問題ヲ決定セントスルモノニシテ第二ハ其本國法ニ依リ第三ハ內國法ニ依リテ之ヲ決定セントセリ右住所法說ト本國法說トハ殆ト相類スルモノナリ本國法說ヲ唱フル學者中或ハ能力ハ人ニ附著スルモノナルカ故ニ之ニ關スル規定モ亦屬人法ナリト曰フ者アリ或ハ本國ト其臣民トノ關係ハ本國ニ在ルト否トニ依リテ消滅スルモノニ非ス唯外國

ノ主權ヲ侵害スル場合例ヘハ物權ニ關スル規定ニ於テノミ外國ノ法律ニ服從スヘキモノナリト曰フ者アリ或ハ權利能力ヲ行爲能力ト同視シ氣候風土等ノ天然的關係又ハ社會ノ狀態ニ依リテ權利能力ヲ定ムルモノナルカ故ニ外國法ニ依リテ權利能力ノ問題ヲ決定スルコト能ハスト曰フ者アリ住所法說ヲ唱フル者ハ本國ノ代リニ住所ヲ主張スルニ過キス而シテ內國法說ヲ唱フル者ハ曰ク若シ外國法殊ニ本國法ニ依リ此問題ヲ決スルトキハ内外人平等主義ヲ打破スルニ至ルヘシ例ヘハ露西亞獨逸等ノ貴族カ內國ニ於テ特權ヲ享有スルヲ得ルハ本國法說ヨリ生スル當然ノ結果ニシテ即チ外國人ハ內國人ニ比シ不平等ノ地位ニ立ツニ至ル之ニ反シテ奴隸ヲ認ムル國ノ人民カ我國ニ來リタルトキ本國法ヲ適用セハ何等ノ權利ヲ享有スルコト能ハサルニ至ルヘシ云云ト以上ノ說ハ何レモ十分ノ根據ヲ有セス蓋シ權利能力ハ行爲能力ト其性質ヲ異ニスルモノニシテ從來ノ學者カ此二者ヲ混同シタルハ全ク認論ナリ內國法說ハ稍穩當ナルカ如キモ若シ內國法カ平等主義ヲ採ラサル場合ハ如何ニスヘキヤ蓋シ外國人ノ私權ニ關スル現行ノ制度ハ必スシモ平等主義ニ非サルコトハ既ニ

總論ニ說明セシ所ナレハナリ  
予ヲ以テ之ヲ觀ルニ權利能力ノ準據法ハ即チ法律關係ノ準據法ナリ蓋シ法律關係ノ準據法ハ必スヤ一定ノ人格ヲ豫想セサルハナシ例ヘハ物權ノ目的カ其目的物ノ所在地法ニ依リテ決セラルルハ我國ヲ首メ歐洲大陸ニ於テ多ク認ムラルル所ナリ此場合ニ物權ノ準據法ハ目的物ノ所在地タリ而シテ其所在地法ハ外國法ニ依リテ物權ノ享有者ヲ認メタリト解スルコト能ハサルハ權利享有ノ問題ト法律關係自體ノ問題トカ別箇ノ法律ニ依リテ管轄セラルルトキハ原因結果ノ連絡ヲ缺ケハナリ我法例其他ノ國ノ法律ニ於テ此ノ如キ不理論ノ結果ヲ認メタリト解釋スルコト能ハス隨テ我法例ノ如ク行爲能力ノ問題ノミヲ規定シ權利能力ノ問題ヲ規定セサルハ法律關係ノ準據法中ニ包含セシメタルカ故ナリ或ハ法例第三條ノ能力ナル文字中ニハ權利能力ヲ含ムト曰フ者アレトモ我國ニ於テ能力ナル文字ハ既ニ一定ノ意味ヲ有スルモノナルカ故ニ此說ニ從フコト能ハス加之第三條第二項以下ノ規定ヲ見レハ所謂行爲能力ノミヲ規定シタルコト明カナルヘシ

## 第二款 法人ノ權利能力

外國ノ法人ヲ内國ニ於テ認ムヘキヤ否ヤノ問題ハ昔時ニ於テハ概テ其當事者能力ヲ認ムヘキヤ否ヤノ問題ナリトシカ今日ニ於テハ其權利能力ヲ認ムヘキヤ否ヤノ問題ナリトス蓋シ今日ニ於テハ權利能力ヲ有スル者ハ當事者能力ヲ有スルヲ以テ原則トスレトモ昔時ハ之ニ反シテ外國法人ノ當事者能力ヲ認ムレトモ必スシモ權利能力ヲ認メナレハナリ今日外國法人ヲ認ムヘシト唱フル者ハ或ハ便宜上ヨリ立論スル者アリ即チ法人ハ文明ノ結果ニシテ社會ニ利益ヲ與フルモノナルカ故ニ之ヲ認ムヘシト云フニ在リ或ハ法人ノ性質上ヨリ立論スル者アリ此說ハ純然タル法理論ナルカ故ニ茲ニ之ヲ詳論セン其說ニ曰ク自然人ヲ法律カ人格トシテ認ムルハ自然人ノ性質ヨリ出ツルモノナリ蓋シ法律ハ何ノ爲メニ作ルヤト言ハハ人格保護ノ爲メニ之ヲ設クルモノナリト答ヘサルヘカラス若シ人格ヲ認メ之ヲ保護セサル國アラハ是レ即チ無法律ノ國ニシテ法律ハ人格ヲ前提トシテ存スルモノナリ蓋シ人格ニ實質上及ヒ形式上ノ二

面アリ人格ノ實質ハ法律制定前ニ存スルモノニシテ法律カ之ヲ形式的ニ認メテ始メテ人格ノ保護ヲ全ウスルニ至ル即チ法律ハ人格ヲ保護スヘキ必要ヲ有スルモノナリ法人モ亦之ニ異ナラス法人ハ社會ノ發達ト共ニ社會ニ其實體ヲ生シタルモノニシテ法律カ之ヲ認ムル必要アリテ始メテ起リタルモノナリ即チ法律ハ之ヲ認ムルコトヲ得ルニ非スシテ之ヲ認メサルヘカラサルナリ而シテ自然人ハ國際私法上外國ニ於テモ亦人格ヲ認メラルル以上ハ法人モ亦國際ニ於テ認メラレサルヘカラスト之ニ對スル說ヲ法律制定說ト謂フ即チ法人ハ有形上ニ存在スルモノニ非スシテ吾人ノ腦裡ニ存スル幻影ニ過キス故ニ法律ハ特ニ其人格ヲ認ムルニ非サレハ權利ヲ享有セシ務ヲ負擔スルコト能ハサルモノナリ而シテ法律ハ國境ヲ越エス故ニ外國法人カ當然内國ニ於テ認メラルヘシト云フハ外國ノ主權ニ内國ニ於テ當然行ハルルト云フニ同シ云ト予ヲ以テ之ヲ觀ルニ法律カ自然人ヲ人格トシテ認メサルヘカラサル性質ヲ有スルコトハ人ニ自存目的アルカ爲メナリトス而シテ法律ハ今日ノ學術ニ反シ自然人ヲ以テ萬物ノ靈長ナリト認メタリ語ヲ換ヘテ言ヘハ自然人以外ノモノ

ハ權利ノ目的物トシテ自然人ノ意思ヲ以テ隨意ニ之ヲ處分シ得ヘキモノト認メサルハナシ然ルニ法人ハ自然人ト同シテ自存目的ヲ有スルヤ蓋シ天地間ニ於ケル一切ノ物ハ他存目的ヲ有スルカ故ニ權利ノ目的ト看做サレタリ法人ニシテ自存目的ヲ有スル以上ハ法律ハ之ヲ人格トシテ認メサルヘカラサル結果ヲ生スレトモ法人ハ自存目的ヲ有セズシテ自然人カ生存ヲ全ウセシカ爲メリ存スルモノニ過キス此點ニ於テ權利ノ目的物ト其性質ヲ異ニスルモノニ非ス蓋シ社會ノ發達ト共ニ勞力ノ協同勞力ノ結合ハ益盛ナルハ勿論ニシテ未開時代ニ於テ殆ト知ラサル所ナリトス而シテ吾人カ所謂法人殊ニ私法上ノ法人ハ勞力資本ノ結合ニ外ナラサルヲ知ラハ法人ハ其人者ノ爲メニ存セサルコトヲ明カニスヘシ例ヘハ運河ノ開鑿鐵道ノ布設皆是レ箇箇ノ人格タル自然人ニ依リテ完成スル能ハサル所ナリ是ニ於テ始メテ想像的ノ人格ヲ認ムルノ必要ヲ生セリ故ニ法人ハ法律ノ規定ヲ待テテ始メテ生スルモノニシテ法律カ之ヲ認ムヘキ必要ヲ有セサルハ自存目的ヲ有スル自然人ヲ人格ト認ムヘキ必要アリト至ク相異ナルモノトス

外國法人ノ人格ハ內國ニ於テ之ヲ認メタルトキ始メテ成立スルモノトス而シテ近來ノ立法例ハ法律上一定ノ要件ヲ設ケテ之ヲ認許スル方針ヲ探レリ然ルニ其享有スル權利能力ノ範圍ニ付キ內國法ニ依ルヘキヤ或ハ法人ノ本國法ニ依ルヘキヤハ一ノ問題ナレトモ多クハ本國法ニ依リテ其範圍ヲ定ムヘシト論セリ就中ローラン氏ノ如キハ以爲ラク外國法人ハ設立地ニ於テ法律上生存スト雖モ外國ニ於テ生存スルモノニ非ス即チ權利ヲ行使セントスル地ノ法律ニ依リテ認許セララルニ非サレハ其地ニ生存スヘカラサルモノニシテ內國ニ於テ法人ニ生存ヲ與フルモノハ其地ノ法律ナル以上ハ認許セラレタル權利範圍ヲ定ムルモ亦同一ノ法律タラサルヘカラス云云トワイズ芝ヲ駁シテ曰クローラン氏ノ說ハ認許ニ依リテ本國ノ國籍ヲ喪失シ認許國ニ歸化スルコトヲ認ムルモノト謂フヘシ蓋シ認許ハ法人ニ新ニ人格ヲ與フルモノニ非ス又新ニ國籍ヲ付與スルモノニ非ス云云ト全ローラン氏ノ說ノ當否ヲ明カニセント欲セハ先ツ認許ノ何モノナルヤヲ明カニセサルヘカラス蓋シ認許ト法人ノ創立ト同義ナレハ外國法人ノ享有スル權利ノ範圍ハ總テ內國ノ法律ニ從フヘシト雖モ認許

ハ未存ノ事物ヲ創生スルノ謂ニ非シテ既存ノ事物ヲ認ムルニ過キス故ニ外國法人ヲ認許スルトハ畢竟既存ノ權利義務ヲ認ムルノ謂ナリ日本舊民法人事編草案第七條ニ曰ク法律ハ外國國家ヲ除クノ外無形人ノ成立ヲ認許セス但シ條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス其成立ヲ認許シタル外國無形人ハ帝國ニ成立スル同種ノモノト同一ノ權利ヲ享有スルト同理由書ニ曰ク無形人ハ假想上ノモノニシテ法律ノ力ヲ以テ造成スルモノナレハ性質上其國ニ限ルヘク豈國益ノ爲メ設タルモノヲ外國ニ及ホスノ謂アラザヤ故ニ我法律ハ外國ニ於テ設定シタル無形人ノ存立ヲ認許セス若シ我國ニ於テ權利ヲ行ハントセハ我國ノ認許ヲ得ルヲ要ス此認許ハ或ハ條約ヲ以テ之ヲ約シ或ハ我政府ヨリ特別ノ免許ヲ受クヘキモノトス或ハ法例第七條ノ人ノ身分能力ハ其本國法ヲ以テ之ヲ支配スルノ規則ヲ援引シ人ノ身分能力ハ其本國法ヲ以テ支配スヘキモノナレハ外國無形人ハ其本國法ニ從ヒ其資格ヲ定ムヘシト曰フ者アラン然レトモ前ニ一言シタルカ如ク無形人ハ人事編ノ權利義務ヲ有スヘキモノニ非ス第七條ハ各箇人ニ限り毫モ無形人ニ關係ナキコトハ理ノ當然ナリ且ツ夫レ無形人ヲ

### 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
  - 第一部 毎月 五日 二十日
  - 第二部 毎月 十日 廿五日
  - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セズ
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年十月廿一日印刷  
明治三十三年十月廿五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區西ノ久保明倉町十二番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明倉町十二番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）